

史跡斎宮跡

令和元年度現状変更緊急発掘調査報告

令和2（2020）年12月

明 和 町

序

今からちょうど50年前の昭和45年（1970）に、かつて「幻の宮」とも言われた斎宮跡の発掘調査が開始されました。調査開始時点では「古里遺跡」と呼ばれており、斎宮跡の存在は謎に包まれていました。調査が進展すると、蹄脚硯や大型赤彩土馬などの発見があり、数百年の時を経て斎宮が再び確認されるに至りました。その後、昭和54年に国史跡に指定を受け、昨年の平成31年3月には史跡指定40周年を迎えました。調査開始からこの間、地域住民の皆様の「理解と納得と協力」を得ながら、斎宮歴史博物館による研究成果が蓄積されるとともに、本町による史跡の保存と活用が着実に図られているところです。近年では、史跡西部の竹川地内において、飛鳥時代の「初期斎宮」に関わる発掘調査が集中的に進められており、斎宮跡の調査開始から50周年の節目を迎える本年度に、新たな知見が得られることに大きな期待が寄せられています。

本町では、今年度「明和町文化財保存活用地域計画」を策定し、文化庁より認定を受けることができました。三重県内では初の認定であり、今後は計画に基づいて史跡斎宮跡のみならず町内全域の文化財および文化遺産の保存と活用を総合的に図っていきます。また、既に認定を受けている、「明和町歴史的風致維持向上計画」や「日本遺産」の制度も引き続き活用し、史跡内の環境整備と斎宮跡に関する積極的な情報発信を進め、史跡斎宮跡の保存と活用を一層図ってまいります。

さて、本書は史跡地内で個人住宅等の建設などに伴い発掘調査が必要であった7件の結果についてまとめたものです。調査に際しご理解とご協力いただきました地元地権者の皆さん、発掘調査から報告書作成に至るまでご指導、ご協力いただきました斎宮歴史博物館調査研究課の方々に厚くお礼申し上げます。

令和2（2020）年12月

三重県多気郡明和町

町長 世 古 口 哲哉

例 言

- 1 本書は、令和元（2019）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査のうち、第196-1・2次調査は事業者の明和町が費用を全額負担したが、それ以外については、文化庁及び三重県の補助金を受けて実施している。
- 3 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡・文化観光課が現地調査を担当した。
- 4 調査区名の表示方法（例：GAL13）については、斎宮歴史博物館2003『史跡斎宮跡 平成13年度発掘調査概報』による。
- 5 遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表示している。
- 6 遺構・遺物の時期区分については、斎宮歴史博物館2019『斎宮跡発掘調査報告Ⅱ 柳原区画の調査 出土遺物編』を基準とした。
- 7 遺構記号は、文化庁文化財部記念物課2010『発掘調査のてびき—集落遺跡発掘編一』に準拠し、遺構の種類から以下のように表記している。

SA：塀 SB：掘立柱建物 SD：溝 SE：井戸 SI：堅穴建物 SK：土坑
SP：柱穴・ピット（SA・SB・SIに伴う柱穴はP+番号と表記） SX：その他・不明遺構

- 8 図面・写真等の調査資料および出土遺物は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 9 本書の執筆は、川部浩司（斎宮歴史博物館）が前言・調査報告を、味噌井拓志（明和町斎宮跡・文化観光課）が付編の執筆を行い、編集は川部・味噌井が担当した。

目 次

I 前言	（川部）	1	4 第196-4次調査	（川部）	13
II 調査報告			5 第196-5次調査	（川部）	14
1 第196-1次調査	（川部）	3	6 第196-6次調査	（川部）	15
2 第196-2次調査	（川部）	5	7 第196-7次調査	（川部）	18
3 第196-3次調査	（川部）	7	付編 史跡現状変更等許可申請	（味噌井）	25

表・挿図目次

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移	1	第5表 第196次調査 出土遺物一覧表（3）	23
第2表 第196次調査 遺構一覧表	21	第6表 第196次調査 出土遺物一覧表（4）	24
第3表 第196次調査 出土遺物一覧表（1）	21	第7表 令和元年度現状変更等許可申請一覧	26
第4表 第196次調査 出土遺物一覧表（2）	22		
第1図 発掘調査位置図	2	第6図 第196-2次調査 遺構平面図・土層図	6
第2図 第196-1次調査区位置図	3	第7図 第196-2次調査 遺物実測図	7
第3図 第196-1次調査 遺物実測図	3	第8図 第196-3次調査区位置図	7
第4図 第196-1次調査 遺構平面図・土層図	4	第9図 第196-3次調査 遺構平面図・土層図	8
第5図 第196-2次調査区位置図	5	第10図 第196-3次調査 S111274・S111275遺構平面	

図・土層図	9
第11図 第196-3次調査 SII1274遺構平面図・土層図・遺物出土状況図・SII1275遺物出土状況図	10
第12図 第196-3次調査 遺物実測図(1)	11
第13図 第196-3次調査 遺物実測図(2)	12
第14図 第196-4次調査区位置図	13
第15図 第196-4次調査 遺構平面図・土層図	13
第16図 第196-5次調査区位置図	14
第17図 第196-5次調査 遺構平面図・土層図	14
第18図 第196-5次調査 遺物実測図	15
第19図 第196-6次調査区位置図	15
第20図 第196-6次調査 遺構平面図	16
第21図 第196-6次調査 土層図	17
第22図 第196-6次調査 遺物実測図	18
第23図 第196-7次調査区位置図	18
第24図 第196-7次調査 遺構平面図・土層図	19
第25図 第196-7次調査 遺物実測図	20

写真図版

- 写真図版1 第196-1次 調査区3 全景(西から)
- 写真図版2 第196-1次 調査区3 全景(西から)
- 写真図版3 第196-1次 調査区3 東壁土層(西から)
- 写真図版4 第196-1次 調査区3 西壁土層(東から)
- 写真図版5 第196-1次 調査区1 全景(南東から)
- 写真図版6 第196-1次 調査区1 北壁土層(南から)
- 写真図版7 第196-2次 調査区 全景(北東から)
- 写真図版8 第196-2次 調査区 全景(西から)
- 写真図版9 第196-2次 破壊遺構SII1036(北から)
- 写真図版10 第196-2次 破壊遺構SII1036(北から)
- 写真図版11 第196-2次 破壊遺構SII1036(南西から)
- 写真図版12 第196-2次 基本層序(南から)
- 写真図版13 第196-3次 調査区 全景(南から)
- 写真図版14 第196-3次 調査区 全景(北から)
- 写真図版15 第196-3次 SII1274・SII1275(南東から)
- 写真図版16 第196-3次 SII1274・SII1275(北から)
- 写真図版17 第196-3次 SII1274(南西から)
- 写真図版18 第196-3次 SII1274 南土坑 溶解炉 土層(北から)
- 写真図版19 第196-3次 SII1274 北土坑 溶解炉 検出状況(南から)
- 写真図版20 第196-3次 SII1274 北土坑 溶解炉 土層(南から)
- 写真図版21 第196-3次 SII1275(南から)
- 写真図版22 第196-3次 SII1275 土器出土状況(南西から)
- 写真図版23 第196-3次 SII1276(南西から)
- 写真図版24 第196-3次 SEI1277(北から)
- 写真図版25 第196-4次 調査区1~3 全景(北西から)
- 写真図版26 第196-4次 調査区1~3 全景(南西から)
- 写真図版27 第196-4次 調査区1 全景(南東から)
- 写真図版28 第196-4次 調査区1 西壁土層(東から)
- 写真図版29 第196-5次 調査区 全景(西から)
- 写真図版30 第196-5次 SII1279・SII1280(南から)
- 写真図版31 第196-5次 SII1279・SII1280(北東から)
- 写真図版32 第196-5次 調査区 東壁土層(南西から)
- 写真図版33 第196-5次 調査区 南壁土層(北東から)
- 写真図版34 第196-6次 調査区1~4 全景(北から)
- 写真図版35 第196-6次 調査区1~5 全景(南から)
- 写真図版36 第196-6次 調査区1 SAI1284~11286(北から)
- 写真図版37 第196-6次 調査区1 SAI1284~11286 完掘状況(北から)
- 写真図版38 第196-6次 調査区1 SAI1284~11286 柱穴P1~3 土層(北東から)
- 写真図版39 第196-6次 調査区1 SAI1285・11286 柱穴P4・5 土層(西から)
- 写真図版40 第196-6次 調査区1 SAI1284・11285 柱穴P7~8 土層(西から)
- 写真図版41 第196-6次 調査区4 SII1282(北から)
- 写真図版42 第196-7次 調査区1 全景(北東から)
- 写真図版43 第196-7次 調査区2 全景(東から)
- 写真図版44 第196-7次 調査区1 南壁土層(北西から)
- 写真図版45 第196-7次 調査区2 SD11293(南東から)
- 写真図版46 第196-7次 調査区2 西壁土層(南東から)
- 写真図版47 第196-7次 調査区2 東壁土層(北西から)
- 写真図版48 第196-3次 SII1274 出土土器
- 写真図版49 第196-3次 SII1275 出土土器
- 写真図版50 第196-3次 SII1274 出土 土師器杯「鴨」墨書き
- 写真図版51 第196-6次 SII1282 出土 煙突付移動式カマド

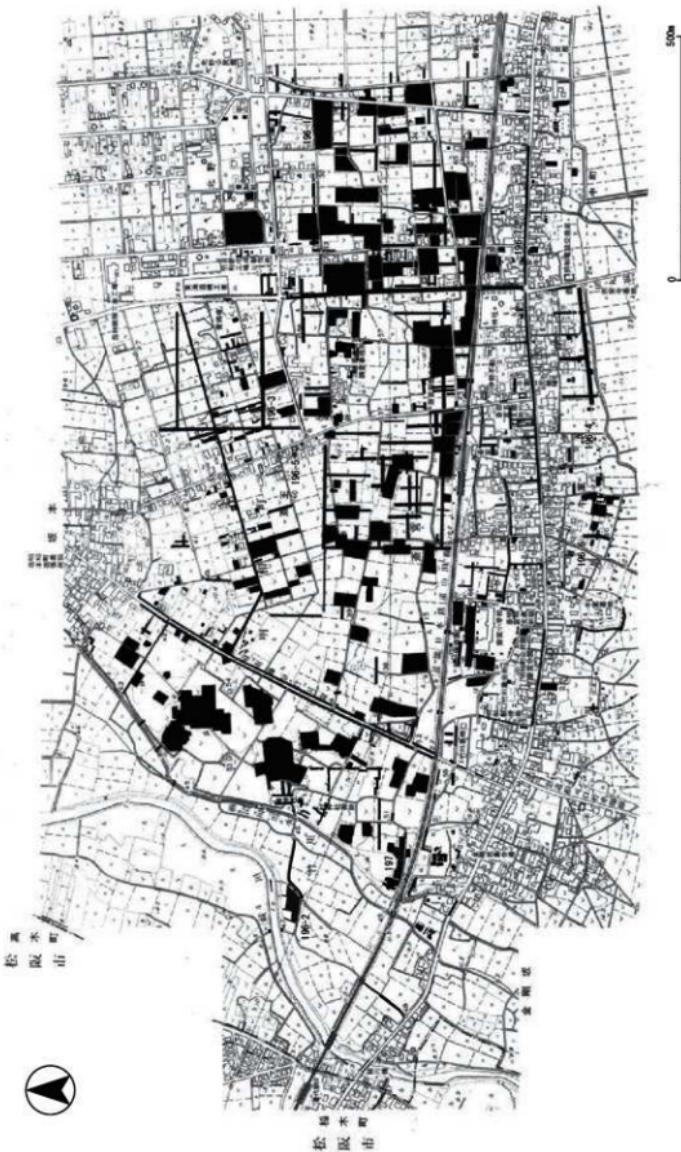
I 前 言

令和元年度は、27件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40~50件程度で推移しているが、令和元年度は例年に比べて少ない状況となった。現状変更の内訳をみると、個人住宅の新築や改築、これに伴う盛土、排水路や公園の整備など、史跡内住民の生活維持のための現状変更に加え、明和町による史跡の環境整備（排水路整備・戸門公園整備）などの歴史的風致維持向上計画（以下、「歴まち整備事業」）に伴う現状変更があり、事前の発掘調査や工事立会いに対応した。このうち、発掘調査が必要となった案件は7件で、調査面積の合計は2,007.3m²である。

第196~3~7次調査は個人住宅の新築及び改築、あるいはそれに伴う盛土で、建物の基礎工事や浄化槽の埋設などに先立って調査を行った。一方、「歴まち整備事業」として、第196~1次調査は排水路整備に関連するもので、改修に伴って排水溝埋設部の調査を行った。第196~2次調査は戸門広場整備に伴う事前の発掘調査で、1,330m²の調査面積を要した。令和元年度の調査面積の合計は2,000m²を超え、例年よりも大幅増であった。これらの調査はいずれも、遺構密度や遺構面の高さの確認など史跡保護にかかるデータの蓄積はもとより、斎宮跡の実態解明にとって重要な成果を得た。

年 度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積 (m ²)	うち補助金調査件数	同調査面積 (m ²)
昭和 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
平成 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	43	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	13	2,171	8	335
19	50	12	374	11	270
20	41	6	237	5	150
21	56	5	790	3	45
22	65	13	448.2	13	448.2
23	43	13	1,070.7	10	223.8
24	35	8	1,899.2	6	91
25	44	17	640.7	12	370
26	41	16	868	9	555.8
27	53	15	352.5	11	198
28	55	17	751.9	8	532.9
29	38	12	664.8	6	214.9
30	42	12	766.1	8	248.4
令和 元	27	7	2,007.3	5	349.3
計	1,807	475	72,215.4	292	27,062.4

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移



第1図 発掘調査地位置図 (1:10,000)

II 調査報告

1 第196-1次調査 (6AU7・V7)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字東加座、東前沖地内（道路、水路）

原因 「歴まち整備事業」東加座広場整備にかかる排水路改修

調査期間 平成31年4月15日～令和元年7月17日

調査面積 328m²

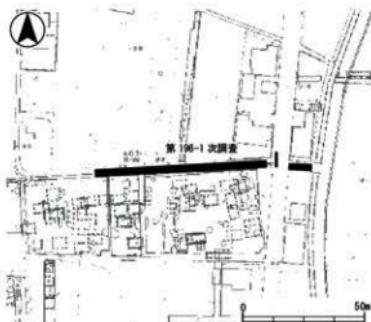
調査概要 調査地は、史跡北東部の方格街区の東限溝「エンマ川」と北辺道路南側溝「前沖溝」に相当する。「歴まち整備事業」にかかる散策路整備に伴う排水路改修の現状変更により、北辺道路南側溝の遺存を確認するため調査を行った。

既設の排水路を除却した底には、北辺道路南側溝の底面及び溝埋土（最下層）が遺存していたため、工事立会いから発掘調査に切り替えて実施した。当初計画では、延長550mの改修を予定していたが、流末の下流側を対象として、今年度分は幅3m、延長90m程度に対応した。調査区を3箇所に分けて概要を報告する。

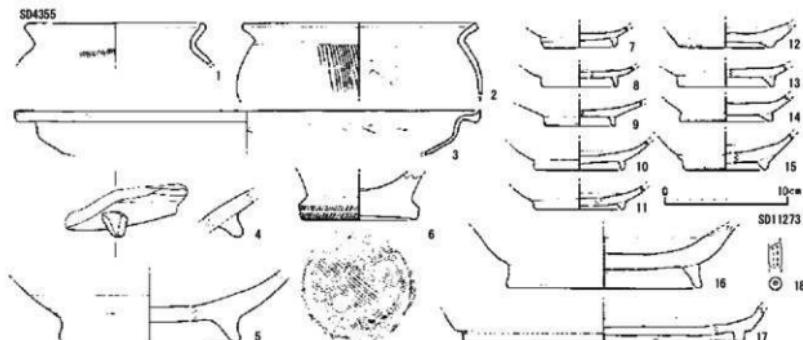
調査区1の東端で造成土を除去し、現地表面から1.3m下（標高7.7m付近）で褐灰色粗粒砂～中粒砂と同色シルトの互層堆積（約0.3mの厚さ）の検出があり、その底面（標高7.4m付近）から西方へ下降する落ち込みを確認した。深さは0.6m以上を測り、堆積層は粗粒砂～中粒砂とシルトの互層堆積やラミナの観察により、自然堆積を示している（標高6.8m付近まで確認）。同層中には平安時代の遺物を包含し、位置関係を勘案すると方格街区東限溝（SD11273）と北辺道路南側溝（SD4355）の合流地点と推定される。調査区1西半部は施工の制限により、褐灰色粗粒砂～中粒砂と同色シルトの地層を検出するに留め、その下面の断ち割りを安全面から回避したため確認できていない。おそらく雨水等排水の流末による下刻を被っているとみられ、合流地点の溝底面の深度は深いと推測される。

調査区2は水道管移設に伴う調査区である。現地表面から1.6m下で北辺道路南側溝（SD4355）の下部を検出した。埋土は褐灰色シルト～粘土で、後述する調査区3の③層に対応する。

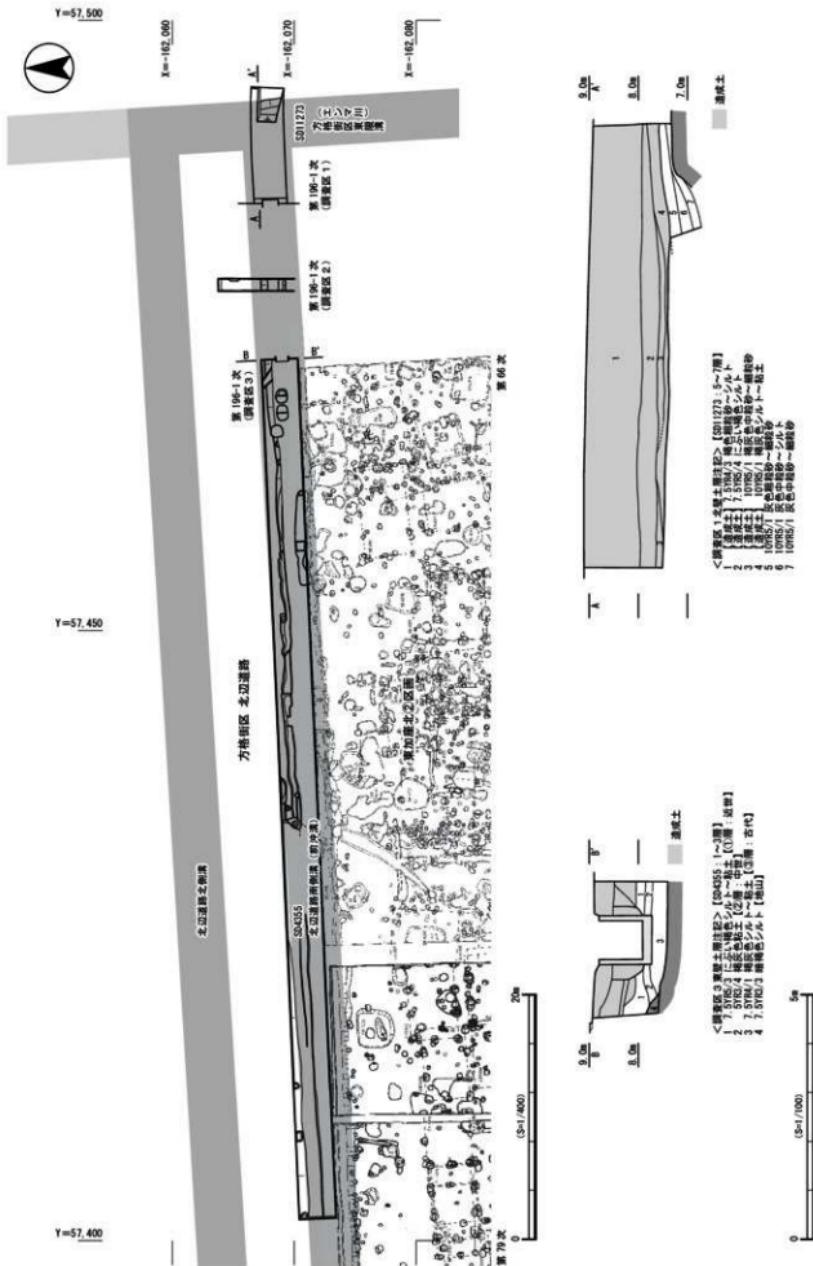
調査区3は造成土を除去し、現地表面から0.7m下で①に赤褐色シルト～粘土（標高8.3m付近）、1.1m下で



第2図 第196-1次調査区位置図 (1:2,000)



第3図 第196-1次調査 遺物実測図 (1:4)



第4図 第196-1次調査 遺構平面図 (1:400)・土層図 (1:100)

②褐色粘土（標高7.9m付近）、1.2m下で③褐色シルト～粘土（標高7.8m付近）を確認した。出土遺物から、①層は近世、②層は中世、③層は古代に属する。③層は厚さ0.3m測り、その底面は地山となる。調査区北端は底面が南へ下降することから、東西方向の溝の北肩部と考えられる。出土遺物と位置関係から勘案して、第66・76次調査で確認された北辺道路南側溝（SD4355）の北半部に相当すると推定される。溝底面や溝肩部には、土坑状に落ち込む箇所が複数あり、底面中央には細い溝が部分的に掘削されている。平安時代の機能時に製作されたかどうか判然としないが、少なくとも溝内に土坑が穿たれる遺構形成を窺えるとともに、細い溝は排水機能の向上あるいは後深によって製作されたと推定される。なお、側溝幅は4～5m程度とみられる。

出土遺物は土師器・須恵器・陶器・磁器・瓦質土器・鏡・瓦・土製品があり、すべて北辺道路南側溝（SD4355）の出土である。なお、方格街区東限溝（SD11273）の出土遺物はなかった。

2 第196-2次調査（6AE7・E8・F7・F8）

調査場所 多気郡明和町大字竹川字破戸700、703、704

原 因 「歴まち整備事業」公園整備にかかる事前発掘

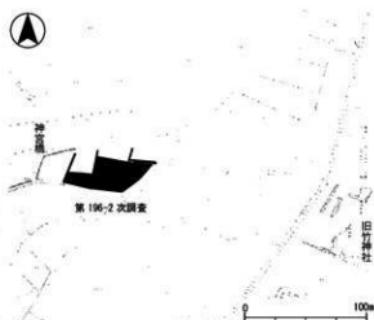
調査

調査期間 令和元年5月13日～17日・24日（確認調査）

令和元年7月22日～11月14日（本調査）

調査面積 1,330m²

調査概要 調査地は史跡西部の冲積低地（水田耕作地）に位置する。当該地付近は、旧竹神社から神宮橋にかけて「伊勢道」の敷設が推定されてきた。これまで斎宮に関する古代～中世の地下遺構は不明確であったため、今回の明和町による「歴まち整備事業」の公園整備計画に伴って、史跡の内容確認の発掘調査を実施した。



第5図 第196-2次調査区位置図 (1:4,000)

周辺の既往調査として、平成29年度の第191-1次調査では、標高8.2m付近で遺物包含層（整地土層）、その下層に歓状隆起を構成する地層を挟み、さらに下層においても遺物包含層（整地土層）を確認している。いずれも中世期以降の形成となる。狹隘な調査区のため地層の観察に終始したが、整地土層を伊勢道に由来する基盤層、歓状隆起（SX11036）を斎宮に関する水田可耕地（生産域）の可能性を推定したところである⁽ⁱⁱⁱ⁾。

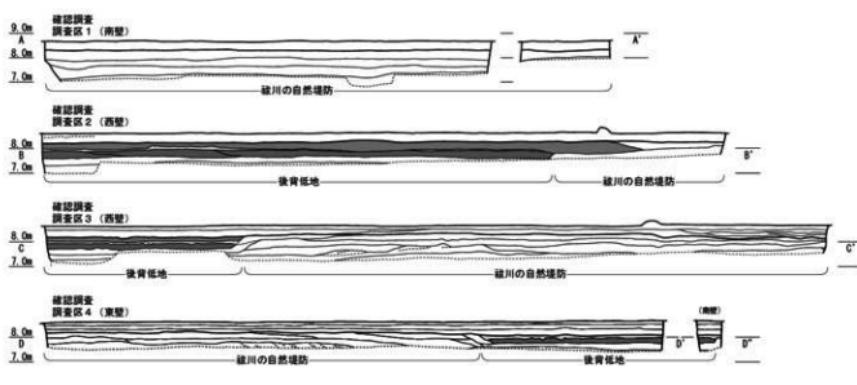
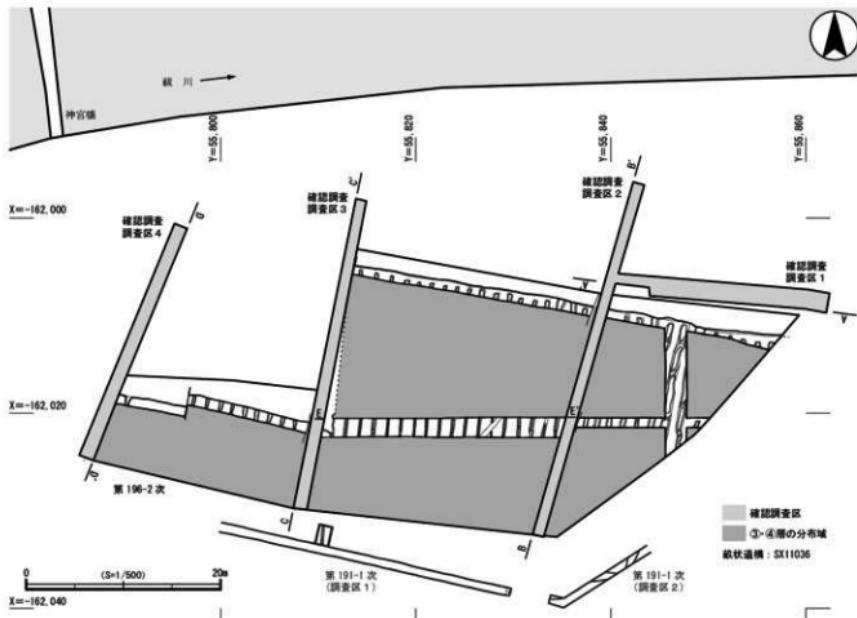
既往調査の成果に基づき、本調査に向けて課題となった点は以下の通りである。

1. 互層堆積を示す整地土層の詳細な形成時期はいつか。
2. 伊勢道に由来する道路基盤あるいは路床の構築、道路側溝などが遺存しているかどうか。
3. 歓状隆起は小区画水田なのか。田面利用が観察できないのはなぜか。

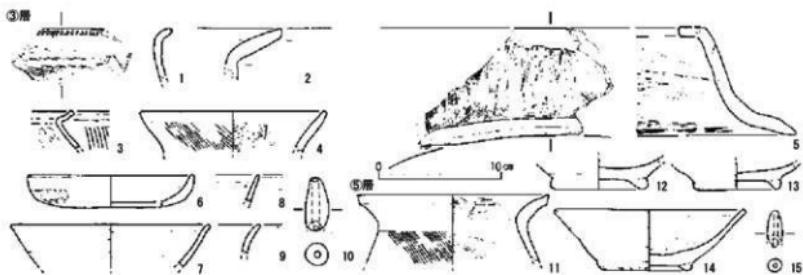
本調査は基本層序③層上面を遺構検出面とした。③層上面には偶蹄類（ウシ）の踏圧痕が認められる。③層を除去した④層は、南北方向に伸びる歓状の製作が及んでおり、東西方向に1.5m間隔で並んでいる。④層は歓状隆起（歓状遺構）として割り出し、その間隙は概ね水平に仕上げている。なお、⑤層は中～近世期の陶器・磁器類の細片を包含する。歓状遺構は水田遺構でないと推測され、近世期以降のいわば圃場整備に伴う造成工事とみられる。

調査成果に基づく当該地の土地利用の変遷を以下に推定する。

- 〔変遷1〕 神川右岸の冲積リッジ（自然堤防）間に後背低地（⑥層）が形成される。⑥層は植物遺体を包含し、ラミナをもつ自然堆積の冲積層となる。
- 〔変遷2〕 近世期に耕地利用として⑥層を埋め立てる（部分的に整地土層（⑤層）を充填）。
- 〔変遷3〕 神川の冲積作用によって④層が厚く被る。



第6図 第196-2次調査 遺構平面図(1:500)・土層図(1:200)



第7図 第196-2次調査 遺物実測図 (1:4)

〔変遷4〕整地土層（③層）を充填するにあたって、④層上部を歓状に削り出しによって加工する。歓状造構（SX11036）は強固な地盤を形成するための整地工法の可能性がある（土地整備に伴う一種の土木工法か）。

〔変遷5〕②・①層が形成する（現代の耕作土層）。

③・④・⑤層中の出土遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・青磁・陶器・磁器・土製品・鉄製品・銭貨があり、いずれも弥生～近世までの遺物を含む。③・⑤層は周辺の沖積リッジ上に形成された遺物包含層の二次堆積あるいは再加工による充填に由来するものと推測される。⑥層より上部の地層の形成時期は、近世期以降とみられる。よって、斎宮に関わる古代～中世の遺構は確認できなかった。沖積作用による侵食あるいは近世期以降の土地利用のため、「伊勢道」及び斎宮に関連する遺構は遺存していない可能性が高いと推定される。

（註）明和町 2019『史跡斎宮跡 平成29年度現状変更緊急発掘調査報告』

3 第196-3次調査 (6AP7)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字楽殿2889-3

原因 駐車場造成

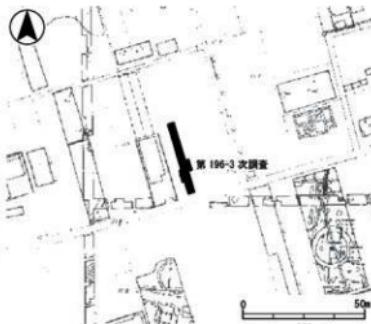
調査期間 令和元年5月16日～6月7日

調査面積 105.5m²

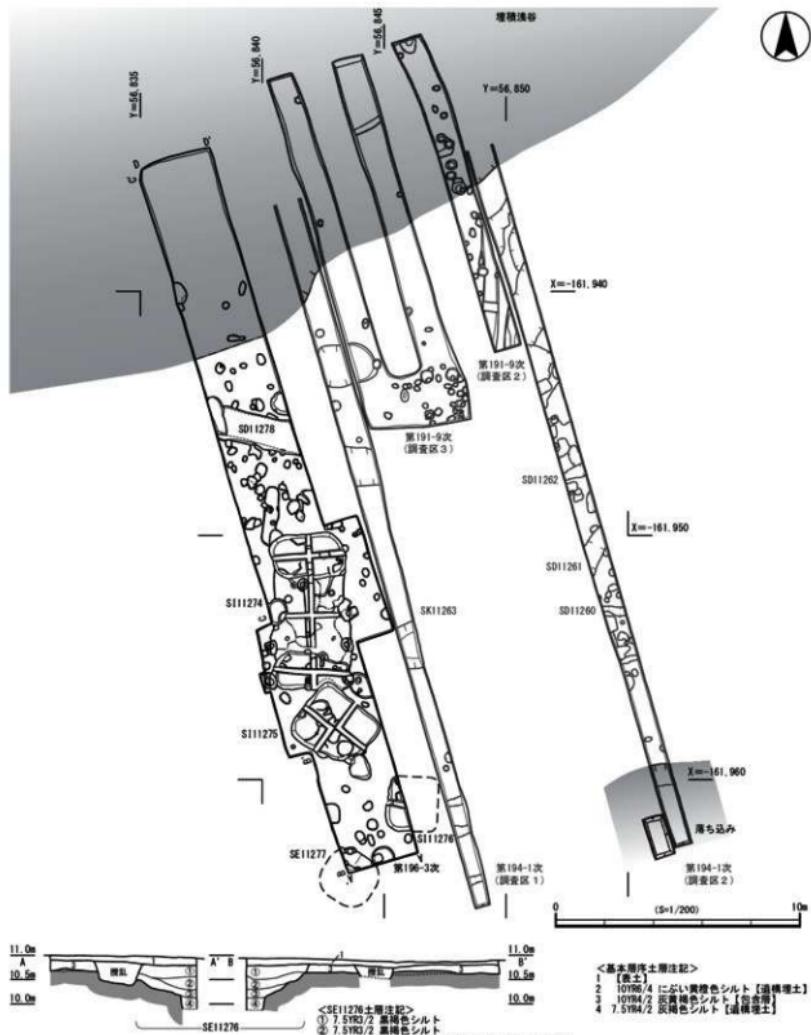
調査概要 調査地は史跡北部の斎王の森の北側に位置し、第191-9・194-1次調査の西側隣接地にあたる。調査前の土地利用は畑地である。

本調査は駐車場造成による盛土施工に伴うものである。調査区は、幅3m、長さ約30mを基準に設定し、部分的に拡張した。調査区の南端で地表面から深さ0.2～0.3m、北端は0.6mで地表面に至る。調査区北半部は埋積浅谷に由来するため、地山面が深い。埋積浅谷は、既往調査（第191-9・

194-1次調査）でも確認している。調査区北半部の斎宮関連遺構は、埋積浅谷の上面で形成されていると予想されるが検出は困難であり、誤認を回避するため地山面で行った。埋積浅谷による潤湿な地形環境のためか検出遺構は疎らで、北半部と南半部の遺構数に粗密が生じている。一方、南半部は建物遺構をはじめとして、多くの遺構が確認された。検出遺構は竪穴建物3棟、土坑（井戸）1基などがある。出土遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・土製品・石製品・鉄製品があった。



第8図 第196-3次調査区位置図 (1:2,000)



<基本層土層記述>

1. [表土] 1. 10.0m/4 にふじく青灰色シルト【透水土】
2. 10.0m/3 黄褐色シルト【透水土】
3. 10.0m/2 黄褐色シルト【透水土】
4. 7.5m/4/2 黄褐色シルト【透水土】

<SE11276土層記述>

① 7. SYR2/2 黄褐色シルト
② 7. SYR3/2 黄褐色シルト
③ 7. SYR4/4 黄褐色シルト (黄褐色シルト塊を含む)
④ 7. SYR3/3 黄褐色シルト (黄褐色シルト塊を含む)

<SD11277土層記述>

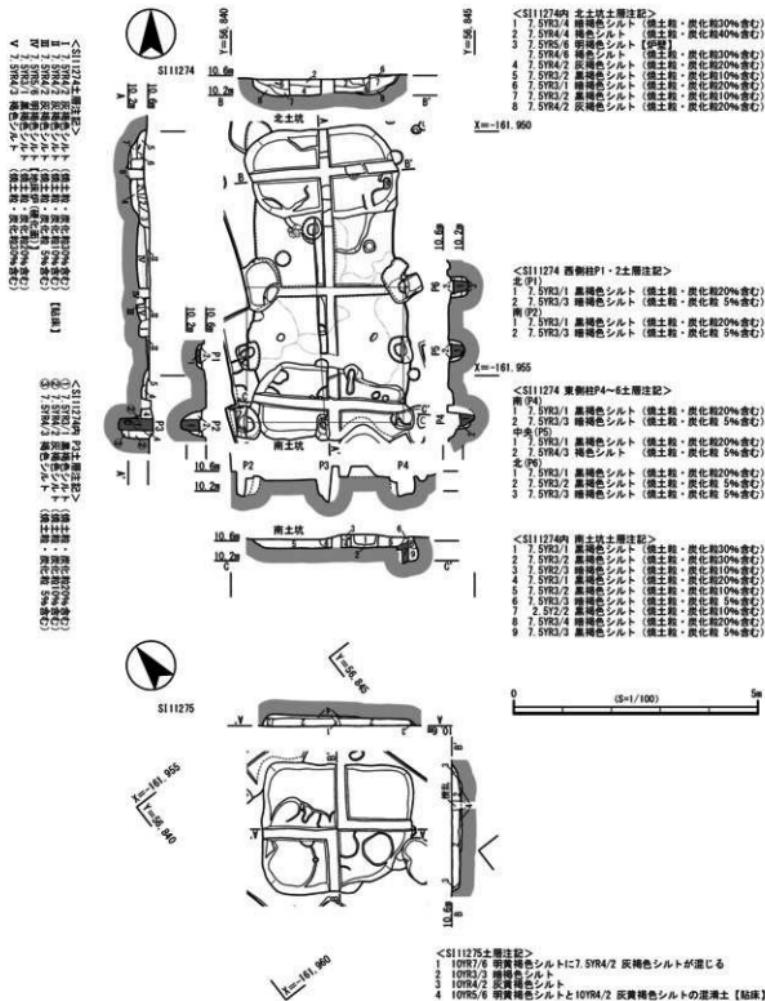
① 7. SYR4/4 黄褐色シルト
② 7. SYR4/3 黄褐色シルト
③ 7. SYR4/2 黄褐色シルト

<埋積渓谷土層記述>

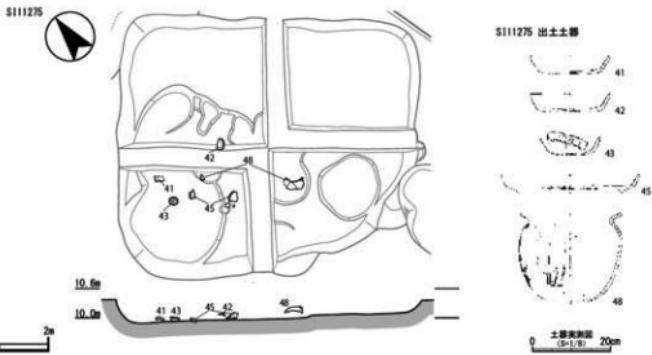
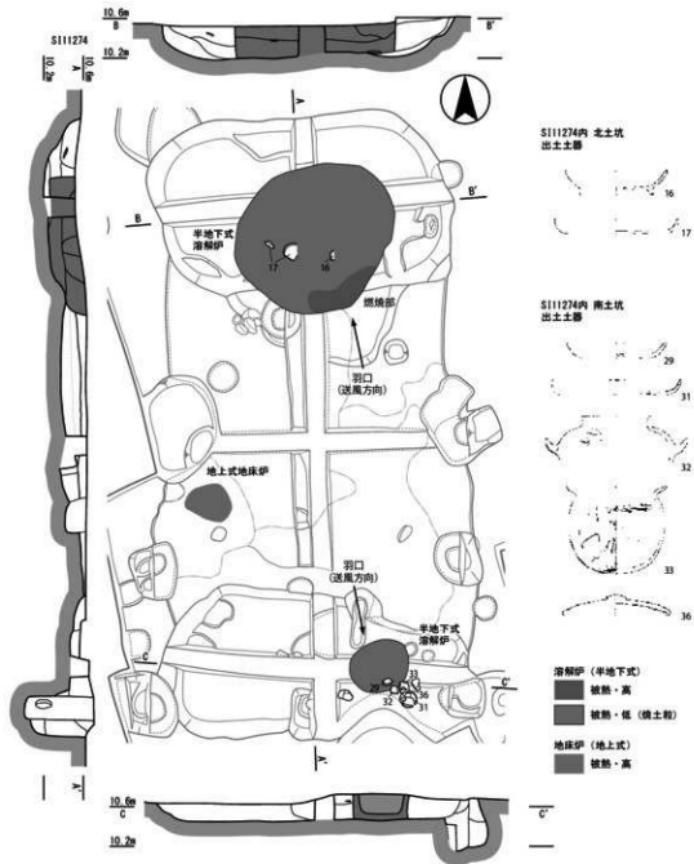
1. 7. SYR2/1 黄褐色シルト
2. SYR3/1 黄褐色シルト
3. SYR2/2 黄褐色シルト
4. 7. SYR4/4 黄褐色シルトが混じる

第9図 第196-3次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

S111274は、平面形が長方形（長軸6.5m×短軸3~3.5m）を呈し、正方位に配置する。堅穴南半部は周囲に2×2間の柱穴を有するが、堅穴北半部には中央に棟持柱穴と推測される1基のみとなる。主柱穴及び造付カマドは設置されていない。堅穴北半部の短軸は南半部より0.5mほど狭い。検出状況から堅穴+半掘立柱状の建物と推測される。南半部は覆屋、北半部は堅穴（あるいは露天）の構造をもつ。ただし壁周溝はない。内部構造は双方の短軸箇所に大型の土坑を設置している。掘削直後に円筒形（箱形？）の工作物を設け、周囲を黒褐色シルトで充填する。土坑中央の被熱面の上面は皿状を呈することから、溶解炉（半地下式）とみられる。堅穴中央部西寄り（土坑間）の貼床上面に地床炉（地上式）を設ける。当該遺構は冶金関連建物と推定され、SE11277が隣接する構成となる。

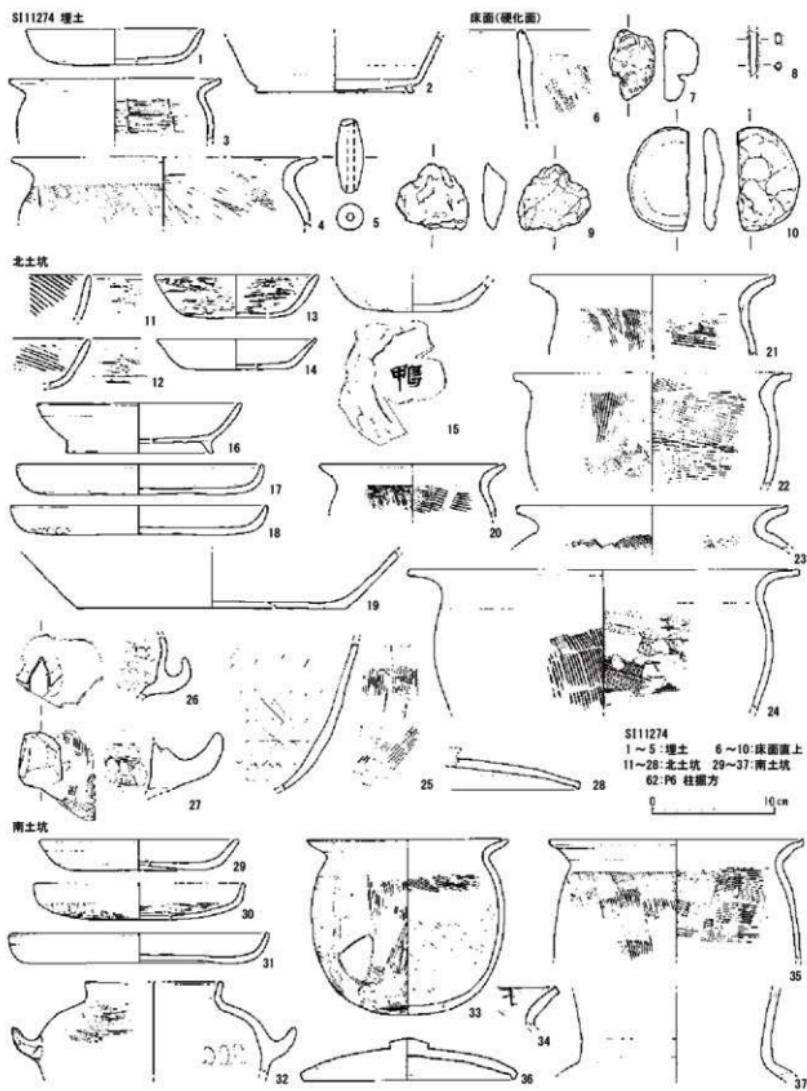


第10図 第196-3次調査 S111274・S111275遺構平面図 (1:100)・土層図 (1:100)



第11図 第196-3次調査 SII11274遺構平面図・土層図・遺物出土状況図 (1:50)・SII11275遺物出土状況図 (1:50)

遺構の形成は、堅穴掘削→土坑掘削→掘立柱（堅穴）→状覆屋→炉構築→土坑埋積⇒操業とみられ、操業の工程は、鉄素材→溶解炉（铸造／鍛造）→成形の工程、製品→地床炉（鍛造）→成形の工程の2通りが推定される。冶金関連遺物としては、焼成粘土塊（炉壁、羽口・送風管目張り）、燃料材としての木炭が多数出土しているが、鉄素材としては釘1点で僅少である。羽口・送風管、金床石、槌、鋸、磁石・磨石、鉛滓などは出土していないが、炉構



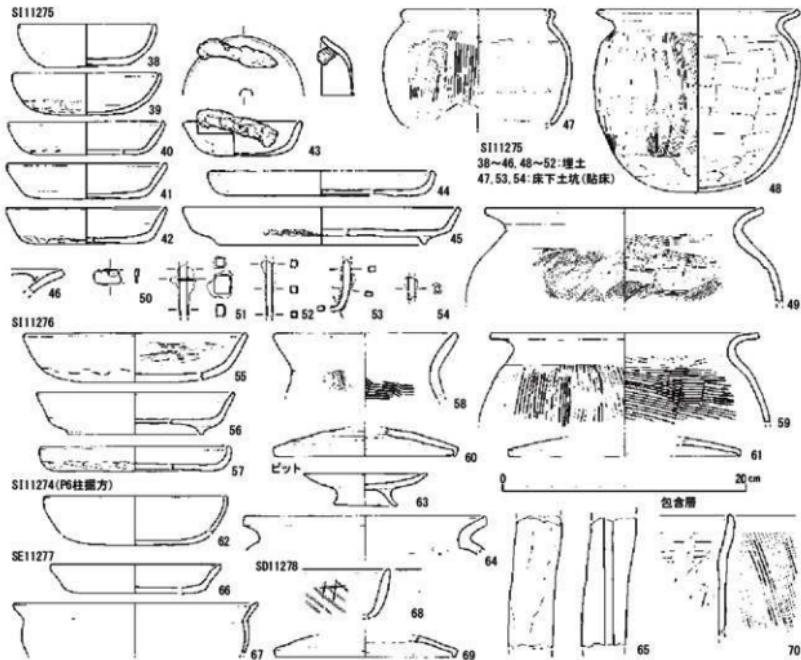
第12図 第196-3次調査 遺物実測図(1) (1:4)

瓦や焼土粒・木炭の散在、地床炉の設置からも鍛冶工房と考えられる。

出土遺物は、炉構築箇所の土坑内を中心に土師器杯・皿・壺などがある。土師器杯は完形品が多く、炉構築時あるいは廃絶後に捨てられた印象を受ける。特筆される遺物として、底に墨書「鴨」のある土師器杯が挙げられる（第12図15）。奈良時代中～後期（斎宮I-3期）に属し、操業は概ね光仁・桓武朝と推定される。

SII11275はSII11274の廃絶後に設けられる。3.1m×2.6mの平面規模をもつ小型の堅穴建物である。SII11276は一辺2.2mを測ることから、極小規模の建物と推測される。いずれも底面は土坑状に凹凸の造作をもつが、貼床によつて機能面は平滑に施されている。床直上から土師器杯・壺などがまとまって出土した。特筆される遺物に、底部が穿孔された土師器杯Aに鉄製棒状品が融着している資料がある（第13図43）。出土時は円孔から鉄製品が離脱していたが、本来は差し込んで使用したものかもしれない。ただし、遺物の性格は不明である。奈良時代後期～平安時代初頭（斎宮I-3～II-1期）に属する。

SII11274の溶解炉とみられる被熱痕跡は、高温操業を示すことから精練・鋳造炉とみられ、炉の構造は半地下式の円筒形の溶解炉と推定できる。操業は小規模ながら3つの炉（大・中・小の規格）を一体化した構造をもち、規格に応じた総合的な工房と目される。大型炉（北土坑の半地下式炉）は溶解（鋳造用）、中型炉（南土坑の半地下式炉）は溶解（鋳造／鍛造用）、小型炉（地上式地床炉）は溶解／鍛冶（鋳造／鍛造用）と推測され、鋳造／鍛造鉄器（鉄斧、鎌先）などの道具を中心に行なわれていたと想定される。金属製道具の修繕、改変を伴う操作（メンテナンス・リサイクル）を一つの施設で行なっていたとみられる。方格街区に近く、北に奥まった埋積浅谷の脇に設けられ、方格街区成立以前の操業からも、工房の機能は方格街区建設に伴う土木具や工具の修繕・製作と推定される。しかし、操業規模は大きくないと見積もられ、一過性の工房と推測される。斎宮の冶金関連工房



第13図 第196-3次調査 遺物実測図(2) (1:4)

は、斎宮寮管理下での運営といえるまでの工房（官営工房）を組織化せず、安定的な維持はとられない。

S111274（冶金工房）廃絶後、S111275・S111276をはじめとして、第196-5次でも堅穴建物3棟を検出しており、方格街区の北方には数棟程度を単位とした広範かつ散在的に小型の堅穴建物群の分布が認められる。小型鉄器（釘中心）が出土する特徴があり、主柱穴・造付カマドが無い建物構造をもつ。建物の性格は不明であるが、方格街区成立後における官人らの居住遺構の可能性を残す。

4 第196-4次調査（6A014）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字木葉山304-7

原因 住宅改築

調査期間 令和元年8月19日～21日・12月9日

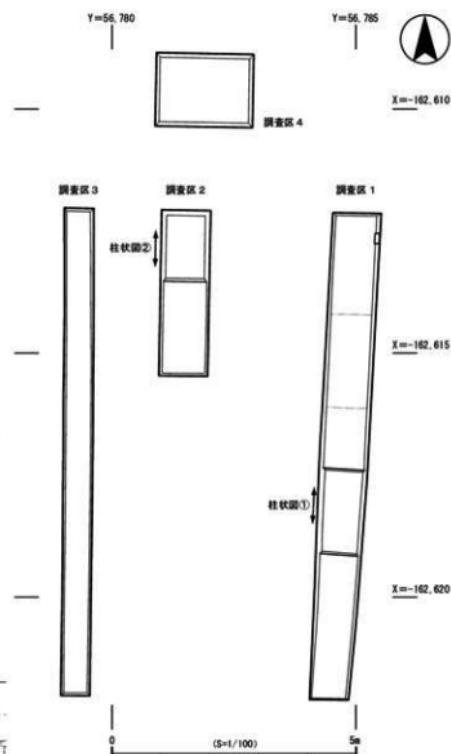
調査面積 22.2m²

調査概要 調査地は史跡南部に位置し、八脚門（SB6850）の公園整備地から東へ120m地点にある。住宅改築に伴う発掘調査であり、地下遺構の破壊が免れない鋼管杭の打設地点に沿って行った。調査区は浄化槽箇所を含めて、南北方向に4箇所のトレンチを設けた。

調査地は地表面（標高11.6m付近）から深さ1.4～2.2m（標高10.2～9.5m）で地山面に至る。地層は上から造成土（宅地造成）、黒褐色シルト（擾乱土層：瓦・陶磁器を多量に含む）である。近現代～現代の擾乱土層によって斎宮関連遺構は完全に削平を受けている。遺構・遺物ともにみられなかった。



第14図 第196-4次調査区位置図 (1:2,000)



第15図 第196-4次調査 遺構平面図・土層図 (1:100)

5 第196-5次調査 (6A08)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字篠林3176-3

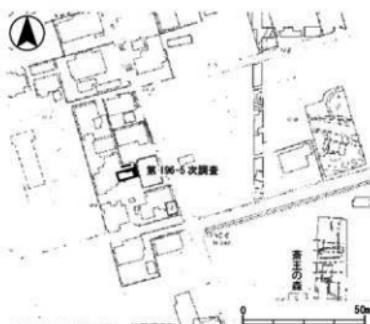
原 因 住宅建築

調査期間 令和元年10月4日～17日

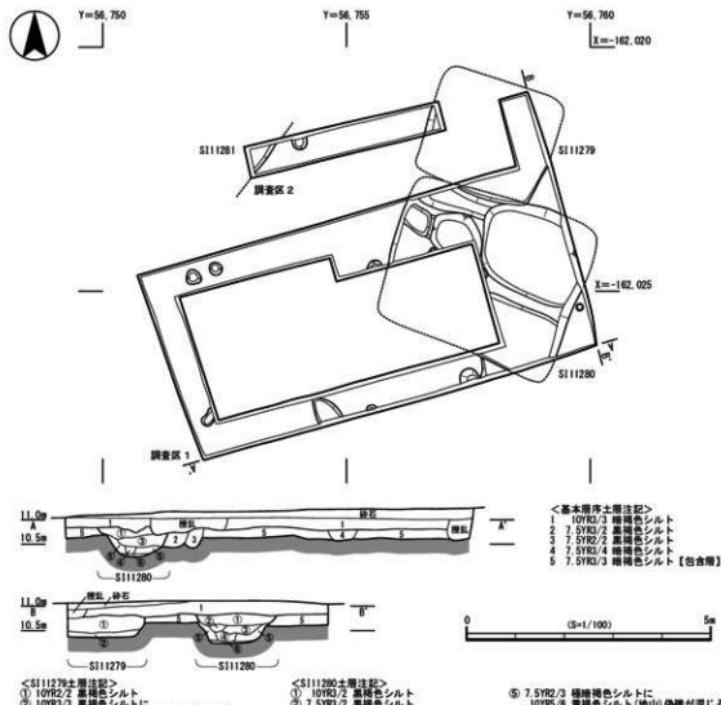
調査面積 103.3m²

調査概要 調査地は史跡北部の斎王の森の北西側に位置し、第196-3次調査から南西約150mの地点にあたる。住宅建築に伴う発掘調査であり、地下構造の破壊が免れない鋼管杭の打設地点に沿って行った。調査区は東西方向とロ字状の2箇所のトレーナーを設けた。調査地は地表面から深さ0.4mで地山面に至る。なお、遺物包含層は地表面から深さ0.2～0.3mで達する。検出構造は堅穴建物3棟など、出土遺物は土師器・須恵器・縄輪陶器・焼成粘土塊があった。

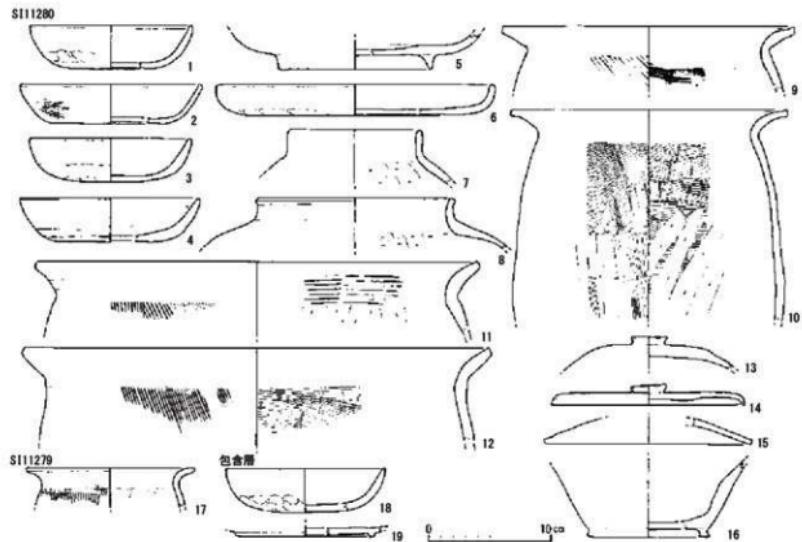
S111279は、一辺2.7mで平面形が方形を呈し、床面まで深さ0.45mを測る。底面の地山層は平滑に仕上げ、その直上に黒褐色シルトと黄褐色シルトの混潤土が0.1m堆積するが、貼床かどうか判然としない。主柱穴と造付カマドは確認できなかった。出土遺物は埋土上層(①層)から土師器・須恵器などが出土した。建物廃絶期は、奈良時代



第16図 第196-5次調査区位置図 (1:2,000)



第17図 第196-5次調査 遺構平面図・土層図 (1:100)



第18図 第196-5次調査 遺物実測図 (1:4)

代前～後期（斎宮I-2～I-3期）に位置付けられる。

S111280はS111279の廃絶後に設けられる。一辺4m×3.3mの平面規模をもち、床面まで深さ0.6mを測る。平面形は方形プランを呈するが、主柱穴と造付カマドはない。底面は土坑状あるいは溝状に凹凸の造作をもつが、貼床によって機能面は平滑に施されている。床直上の出土遺物は少ないが、埋土上～中層（①～③層）から土器・須恵器などが多数出土した。建物廃絶期は奈良時代後期（斎宮I-3期）に位置付けられる。

当該地から北東へ約150m地点の第196-3次でも堅穴建物3棟を検出しており、ほぼ同時期に機能していた建物遺構とみられる。方格街区施工前後の堅穴建物の分布状況を確認したことが調査成果となる。

6 第196-6次調査 (6AN11)

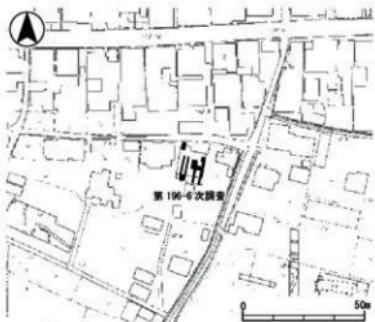
調査場所 多気郡明和町大字斎宮字木葉山95番

原因 住宅建築

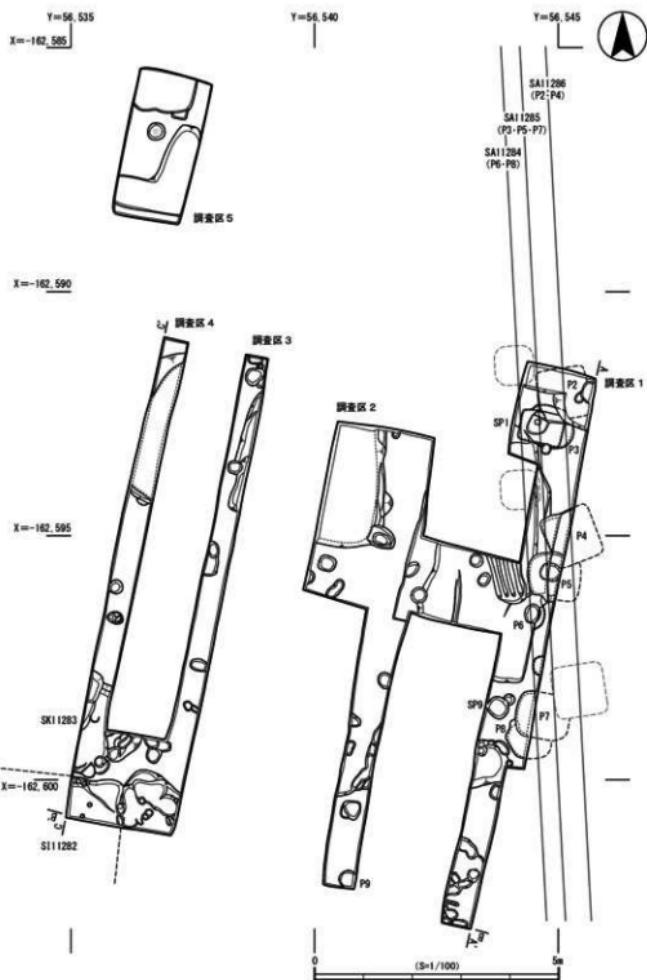
調査期間 令和元年11月13日～26日

調査面積 44m²

調査概要 調査地は史跡南部に位置し、八脚門（SB6850）の公園整備地から北西へ120m地点にあたる。住宅建築に伴う発掘調査であり、地下遺構の破壊が免れない鋼管杭の打設地点に沿って行った。調査区は南北方向を主体に浄化槽箇所を含めて5箇所のトレンチを設け、その間を部分的に連結している。調査地は地表面から深さ0.4mで地山面に至る。ただし、表土直下（地表面から深さ0.15m）で遺物包含層に達し、0.25mの堆積厚がある。調査区内は擾乱が及んでいるが、斎宮関連遺構は良好に遺存している。検出遺構は堅穴建

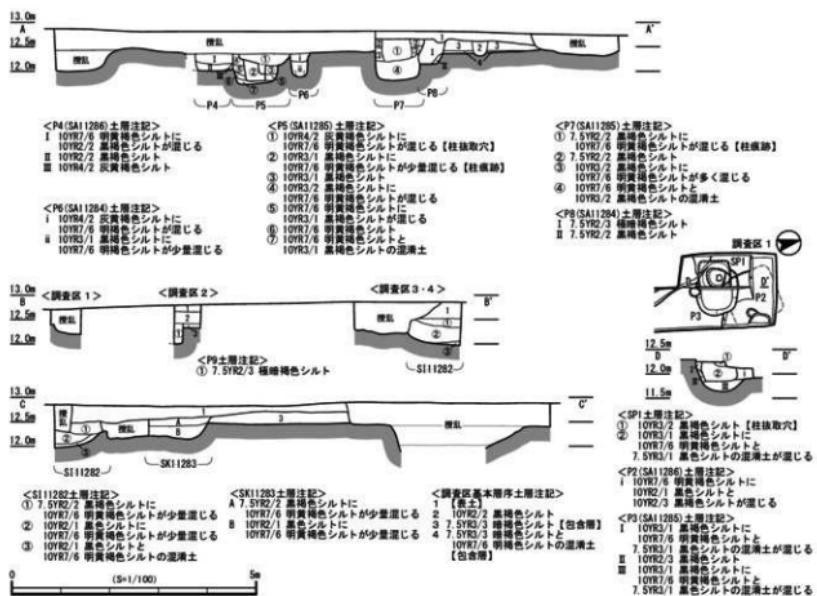


第19図 第196-6次調査区位置図 (1:2,000)



第20図 第196-6次調査 遺構平面図 (1:100)

物1棟、掘立柱塀とみられる柱列3条など、出土遺物は土師器・須恵器・二彩陶器・灰釉陶器・土製品があった。SK11282は調査区4の南西隅で検出した堅穴建物である。一辺1m以上の平面形が方形を呈し、深さ0.5mを測る。底面は緩い段差をもつが、明確な貼床は確認できない。なお、最下層に黒色シルトと明黄褐色シルトの混積土（厚さ5cmの堆積）が貼床の可能性を残す。調査区の制約から主柱穴と造付カマドの有無は確認していない。床直上の出土遺物は少ないが、埋土上～中層（①・②層）から土師器・須恵器などが出土した。特筆される遺物として、煙突付の移動式カマドの破片がある（第22図1）。覆部内面は焼されて黒色化しており、一定期間使用された後、堅穴建物が埋積する途中に廃棄されたと推測される。建物廃絶期は、出土遺物から古墳時代後期とみられる。



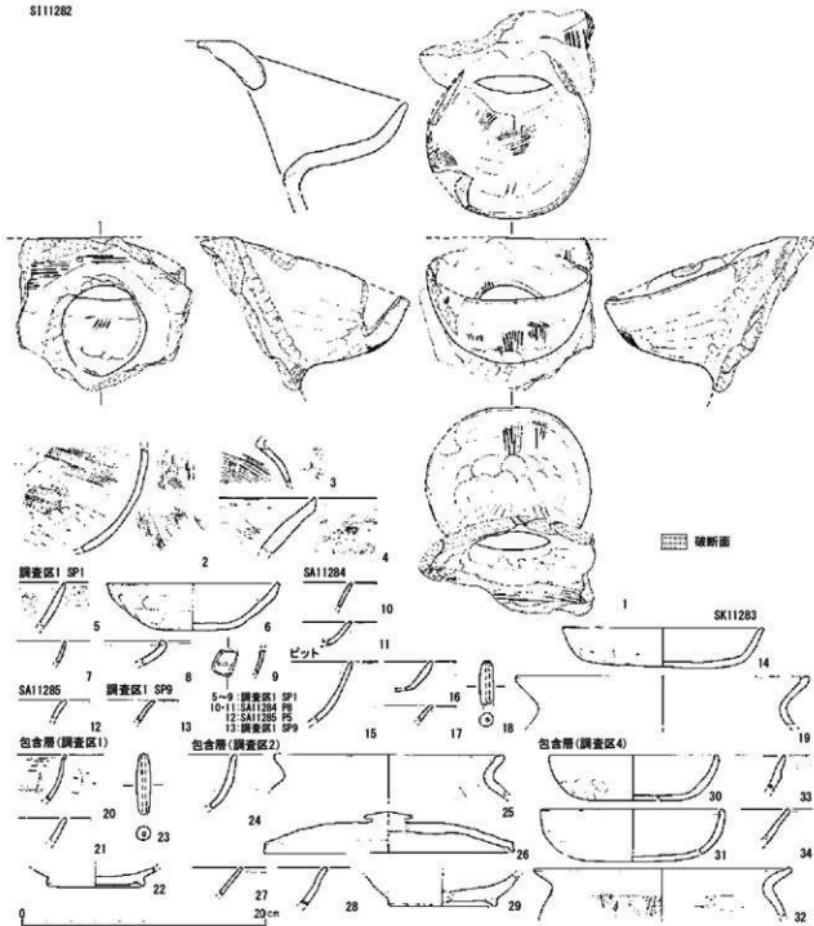
第21図 第196-6次調査 土層図 (1:100)

煙突付移動式カマドは、タタキ成形後に粗いハケ調整で仕上げるが、受部は細曲した上面が平滑を保ち、煙突をもつ特徴から古墳時代後期頃の所産と比定される。こうした煙突付の移動式カマドは、大阪湾岸域の藤屋北遺跡・長原遺跡に類例があり、奈良盆地の小林遺跡にそのミニチュア炊飯具がある。いずれも渡来系集団を介在する集落遺跡であり、移動式カマドは彼らの主導によって日本列島で定着した道具である。当該資料はこのような近畿地方の資料に系譜をもつと考えられる。

調査区1の北半部では、南北2箇分であるが3列の柱穴列を検出し、遺構の形状・埋土の特徴とその配置から掘立柱塀と想定される。柱穴の重複関係から、柱掘方は平面形が①不整方形→②隅丸方形→③正方形の変遷が認められる。これを根拠としてSA11284→SA11285→SA11286の建替えが推定できる。

SA11284 (P6・P8) は、柱掘方が一辺約0.8m、柱痕跡0.2m厚、柱間約2.6mを測る。SA11285 (P3・P5・P7) は、柱掘方が一辺0.9m、柱痕跡0.4m厚、柱間3m (10尺) を測る。SA11286 (P2・P4) は、柱掘方が一辺1mを測り、柱痕跡厚は不明ながら柱間約3m (約10尺) の可能性が高い。いずれも塀の向きはN3~4°Wとなる。SA11285の柱穴は、SA11284・SA11285よりも掘削が深く、太い柱を用いて掘立柱塀を構築している。建替えごとに柱穴は若干の規模の差を生じているが、柱穴と柱間の規模からも掘立柱塀は堅牢かつ重厚さを窺える。なお、P1は掘立柱塀の廃絶後に設けられた柱穴であるが、建物あるいは塀等を復元するには至らない。

調査地は方格街区木葉山西区画の西辺道路の西側隣接地にあたる。検出した掘立柱塀は、その向きが方格街区と合致することから、同時期に併存していたと考えられる。掘立柱塀の位置は、木葉山西区画の西辺道路推定路線から西へ35~40m地点に相当するが、方格街区の外郭線として大型の掘立柱塀による遮蔽施設を設置している可能性が考えられる。なお、SA11286の柱掘方の上半部には、柱抜取穴を有していることから、方格街区木葉山西区画の施設（八脚門など）の廃絶に連動して柱が抜き取られた可能性が高い。特筆される遺物として、調査区1のP1柱抜取穴から二彩陶器片が出土している（第22図9）。



第22図 第196-6次調査 遺物実測図 (1:4)

7 第196-7次調査 (6AS12)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字中西2752

原 因 住宅建築

調査期間 令和元年11月28日～12月17日

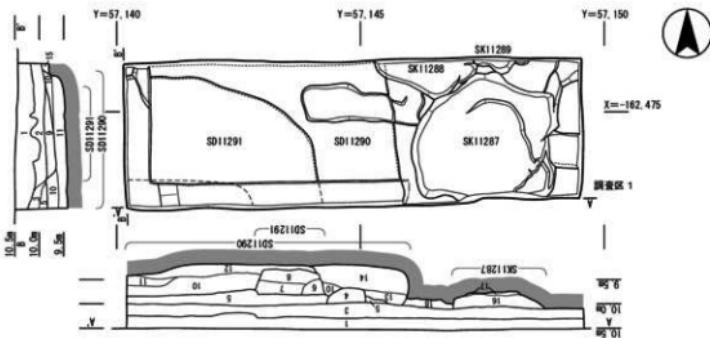
調査面積 74.3m²

調査概要 調査地は史跡東南部の鍛冶山西区画に位置する。

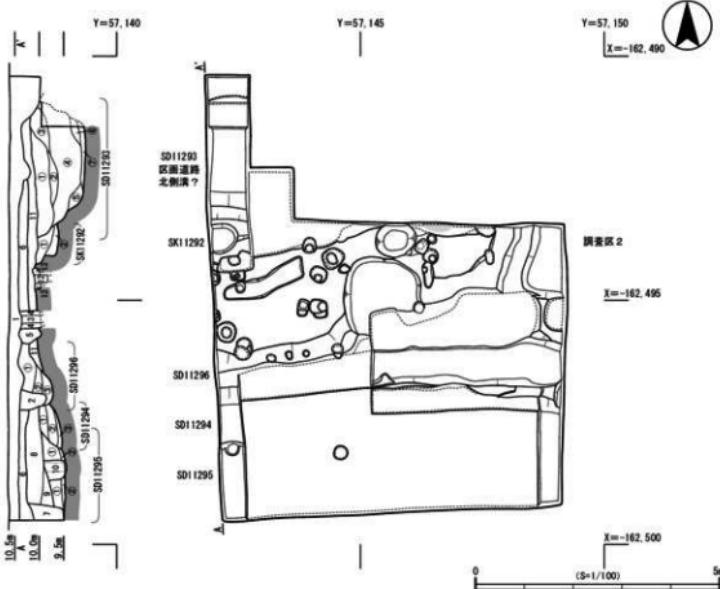
住宅建築に伴う発掘調査であり、調査区を南北に分けて2箇



第23図 第196-7次調査区位置図 (1:2,000)

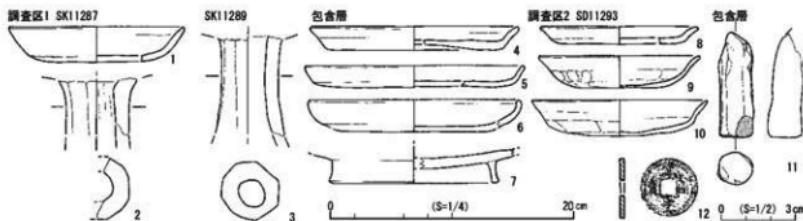


- <調査区1南・西壁土層注記>
1. 7.SYR3/2 基褐色色シルト【素土・造成土】
 2. 7.SYR3/3 暗褐色細粒粉～シルト【地山崩壊、堆土粒・土器細片を含む】【堅地土層】
 3. 7.SYR3/4 基褐色シルト【素土】
 4. 7.SYR3/5 基褐色シルト【地山崩壊】
 5. 7.SYR3/4 暗褐色シルト【地山土層】
 6. 7.SYR3/1 基褐色シルトに巣巣状じごん【SDI1291】
 7. 7.SYR3/2 基褐色色シルトと5-10mmの混生土【土器細片を含む】【SDI1290】
 8. 7.SYR3/2 深褐色色シルトと5-10mmの混生土【SDI1291】
9. 7.SYR2/4 暗褐色細粒粉～シルト【地山崩壊、堆土粒・土器細片を含む】【SDI1291】
10. 10YR2/4 暗褐色細粒粉～シルト【地山崩壊、堆土粒・土器細片を含む】【SDI1290】
11. 10YR2/2 黒褐色細粒粉～シルト【地山崩壊、堆土粒・土器細片を含む】【SDI1290】
12. 10YR2/2 黑褐色細粒粉～シルト【地山崩壊、堆土粒・土器細片を含む】【SDI1290】
13. 7.SYR2/3 基褐色シルト【SDI1290】
14. 7.SYR2/2 暗褐色細粒粉～シルト【SDI1290】
15. 10YR2/2 黑褐色シルト【地山崩壊、堆土粒・土器細片を含む】【堅地土層】
16. 10YR2/2 暗褐色細粒粉～シルト【SK11287】
17. 10YR2/2 黑褐色細粒粉～シルト【地山崩壊の混生土】
18. 7.SYR2/2 深褐色色シルト【堅地土層】



- <SDI1290土層注記>
1. 7.SYR3/3 基褐色色シルト～粘土
 2. 7.SYR3/4 基褐色細粒粉～シルト
 3. 7.SYR3/4 基褐色色シルト～粘土
 4. 7.SYR3/2 基褐色色シルト～粘土
 5. 7.SYR3/2 基褐色色シルト～粘土に巣巣状じごん
 6. 7.SYR3/2 基褐色色シルト～粘土
 7. 7.SYR3/2 基褐色色シルト～粘土と地山崩壊の混生土
- <SDI1294土層注記>
- ① 10YR2/2 基褐色色シルト【素土・造成土】
 - ② 10YR2/4 暗褐色細粒粉～シルト
 - ③ 10YR2/4 深褐色色シルト
- <SK11289土層注記>
1. 10YR2/2 黑褐色細粒粉～シルト～粘土
 2. 10YR2/2 黑褐色細粒粉～シルト～粘土
 3. 10YR2/2 黑褐色細粒粉～シルト～地山崩壊の少量含む【柱礎方】
 4. 10YR2/2 黑褐色細粒粉～シルト～地山崩壊の混生土【柱礎方】
 5. 10YR2/3 黑褐色細粒粉～シルト～地山崩壊の混生土
 6. 10YR2/3 黑褐色細粒粉～シルト～地山崩壊の混生土
 7. 10YR2/1 黑褐色細粒粉～シルト～粘土【柱礎】
 8. 10YR2/3 黑褐色細粒粉～シルト
 9. 10YR2/3 黑褐色色シルト～粘土
 10. 10YR2/2 黑褐色色シルト【柱礎】
 11. 10YR2/3 黑褐色細粒粉～シルト【柱礎】
 12. 10YR2/2 黑褐色細粒粉～シルト～地山崩壊の混生土【柱礎方】
 13. 10YR2/2 黑褐色色シルト～粘土
- <SDI1292土層注記>
- ① 10YR2/2 黑褐色細粒粉～シルト
 - ② 10YR2/2 黑褐色細粒粉～シルト
 - ③ 10YR2/2 黑褐色色シルト～粘土
 - ④ 10YR2/2 黑褐色色シルト～粘土
- <SDI1295土層注記>
- ① 10YR2/2 黑褐色細粒粉～シルト
 - ② 10YR2/2 黑褐色色シルト～粘土
 - ③ 10YR2/2 黑褐色色シルト～粘土

第24図 第196-7次調査 遺構平面図・土層図 (1:100)



第25図 第196-7次調査 遺物実測図 (1:4)

所のトレンチを設けた。調査地1は地表面から深さ0.4m、調査区2は0.5mで地山面に至り、遺物包含層（整地土層か）は調査区1で0.2m、調査区2は0.4mで達する。調査区内は擾乱が多数及んでおり、斎宮関連遺構の遺存度は悪い。検出遺構は土坑5基、溝7条などを確認した。いずれも規模の大きい遺構は検出されるが、建物遺構などは判然としない。出土遺物は土師器・須恵器・陶器・土製品・鉄製品・銭貨があった。

調査区1は、東半部に大型土坑（SK11287～SK11289）の連結、西半部は大型の溝（SD11290・SD11291）を検出した。東半部の連結する大型土坑の平面形は不整な形状を呈し、いずれも鉢鉢状に窪む。内院の外郭の土坑状遺構に連なるもの可能性があるが、調査区の制約から判然としない。西半部は検出幅約5mを測る南北方向の溝（SD11290）があり、それが概ね埋積した後に南から西へ緩やかに折れ曲がる溝（SD11291）が開削される。南北溝の東肩はオーバーハンプグ、深さ0.8m、L字状溝は検出幅1.4m、深さ0.5mを測る。調査区2では検出していないため、調査区間で途切れるか、外部へ続くものと推測される。これらの上部に整地土層が形成されており、おそらく窪地地形を平滑に造作していると考えられる。

調査区2は東西方向の溝4条が併走する配置にあるが、地層から新旧関係を観察でき、SD11294→SD11295→SD11296の順に掘削されている。SD11293は検出幅約3m、深さ1.2mを測り、二段掘りで断面形状が逆台形を呈する。これらの東西溝に併行した小型の柱穴列が復原でき、掘あるいは樋の可能性がある。

参宮街道沿いの調査地のため、全体的に後世の改変が著しく地下遺構の遺存状況は悪い。本調査では、掘削深度の大きい遺構の確認に留まる。なお、内院の外郭南辺の掘立柱塀は、調査区1・2間に収まるものと推測されるため、今回は確認できていない。

第10次調査の東西溝を延伸して復原すると、SD11293はSD589、SD11294はSD590、SD11295はSD591と推定される。SD11293は、鍛冶山西区画の南辺に設けられた区画道路北側溝の蓋然性が高い。

次数	遺構名	調査時 遺構名	時期	出土遺物	備考
196-1	SD 4355	前沖溝	古代～近世	土器部・須恵器・陶器・鐵器・瓦質土器・礎・瓦・土製品	壘塀のある竈跡
	SD 11273	渠1	古代～中世	土器部・須恵器・土器	
196-2	SK 11036	柱状遺構	古墳	土器部・須恵器・陶器・鐵器(釘)	第191-1次調査で12SN11036と記載
	SI 11274	壁穴建物1	奈良中期～後期	土器部・須恵器・燒成粘土塊	
	SI 11275	壁穴建物2	奈良後～平安初期	土器部・須恵器	
196-3	SI 11266	壁穴建物3	奈良後～平安初期	土器部・須恵器	壘塀のある土師器
	SI 11277	土坑4	奈良中期～後期	土器部	
	SD 11278	渠1	奈良中期～後期	土器部・須恵器	(文)土師器(刻書あり)
	SI 11279	奈良前～後期	土器部		
196-5	SI 11280	壁穴建物	奈良中期	土器部・須恵器	
	SI 11281	土坑2	奈良中期～後期	土器部・燒成粘土塊	
	SI 11282	壁穴建物1	古墳後期	土器部	
	SK 11283	土坑1	古墳後期～	土器部	
196-6	SA 11284	pH3.0	平安前期	土器部・黑色土器	P3-P8
	SA 11285	pH5.7-7.0	平安前期	土器部	P3-P5+P7
	SA 11286	pH2.9	平安前期	土器部	P2-P4
	SK 11287	土坑3	平安後期～	土器部・須恵器	
	SK 11288	土坑5	平安後期	土器部	
	SK 11289	土坑4	平安後期	土器部	
	SD 11290	渠2	平安後期～	土器部・須恵器	
	SD 11291	土坑2	平安後期～	土器部	
196-7	SK 11292	F3	平安後期以前	土器部	
	SD 11293	渠2	平安後期	土器部	
	SD 11294	渠5	平安後期	土器部	
	SD 11295	渠4	平安後期～	土器部	
	SD 11296	渠3	平安後期～	土器部	

第2表 第196次調査 遺構一覧表

第196-1次調査

番号	基盤	基軸	出土遺物	調査時 遺構名	法面(m) 底面(m)	調査・挂法の特徴	管 位	傾 斜	色調	残存度	監査番号	備考
1	土師器	渠	SD4355	前沖溝	複合式 渠	1.0 内:三コナードチャハ 外:三コナードチャハ 1.0 内:三コナードチャハ 外:三コナードチャハ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-03	
2	土師器	渠	SD4356	前沖溝	口沿 舟形渠	0.8 内:三コナードチャハ 外:三コナードチャハ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-04	
3	土師器	舟形	SD4357	前沖溝	複合式 渠	2.7 内:三コナードチャササ 外:三コナードチャササ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-05	外側に櫛付帯
4	灰陶器	灰手提袋	SD4358	前沖溝	舟形 舟形渠	0.8 内:ナガチャササ付 外:ナガチャササ付	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-06	
5	漆器	漆	SD4359	前沖溝	舟形 舟形渠	1.0 内:ヨロナヂ・ロコクゼリ・赤切通・點付高足 外:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-07	
6	漆器	漆	SD4360	前沖溝	舟形 舟形渠	0.7 内:ヨロナヂ・ナガチャササ付 外:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-08	直部:青 外側:青(2973)
7	灰陶器	灰	SD4361	前沖溝	舟形 舟形渠	1.7 内:ヨロナヂ・赤切通 外:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-09	直部:青 外側:青(2973)
8	灰陶器	灰	SD4362	前沖溝	舟形 舟形渠	0.8 内:ヨロナヂ・ロコクゼリ・赤切通・點付高足 外:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-10	直部:青 外側:青(2973)
9	灰陶器	灰	SD4363	前沖溝	舟形 舟形渠	0.5 内:ヨロナヂ・赤切通・點付高足 外:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-11	
10	灰陶器	灰	SD4364	前沖溝	舟形 舟形渠	0.4 内:ヨロナヂ・赤切通・點付高足 外:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-12	
11	灰陶器	灰	SD4365	前沖溝	舟形 舟形渠	2.1 内:ヨロナヂ・赤切通・點付高足 外:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-13	
12	角器	山形根	SD4366	前沖溝	舟形 舟形渠	2.0 内:ヨロナヂ・赤切通のナガナギ・赤切通・點付高足 外:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-14	
13	陶器	山形根	SD4367	前沖溝	舟形 舟形渠	2.5 内:ヨロナヂ・點付高足・赤切通 外:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-15	
14	陶器	山形根	SD4368	前沖溝	舟形 舟形渠	2.0 内:ヨロナヂ・赤切通・點付高足 外:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-16	
15	陶器	山形根	SD4369	前沖溝	舟形 舟形渠	2.0 内:ヨロナヂ・赤切通・點付高足 外:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-17	
16	陶器	灰	SD4370	前沖溝	舟形 舟形渠	1.5 内:ヨロナヂ・ロコクゼリ・點付高足 外:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-18	
17	陶器	灰	SD4371	前沖溝	規定渠	2.2 内:ヨロナヂ・直輪・直輪・波線2条 外:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-19	内・外側:呂喰輪付
18	土器	土器	SD11273	渠1	舟形 舟形渠	2.1 内:ナガ 外:ナガ 外:丸腹 外:丸腹	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-20	

第196-2次調査

番号	基盤	基軸	出土遺物	調査時 遺構名	法面(m) 底面(m)	調査・挂法の特徴	管 位	傾 斜	色調	残存度	監査番号	備考
1	生土土器	渠	-	3堆	舟形渠	4.1 外:タラハナ・ヨロナヂ・ナガ 内:ナガ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-01	
2	土師器	渠	-	3堆	舟形渠	4.2 外:ヨロナヂ 内:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-02	
3	土師器	渠	-	3堆	舟形渠	3.1 外:ヨロナヂ・タラハナ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-03	土器裏(Ⅲ型): 小型品
4	土師器	渠	-	3堆	舟形渠	1.8 内:ヨロナヂ・タラハナ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-04	
5	土師器	舟	WFC	渠	2.0 内:ナガ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-05	舟形渠	
6	土師器	渠	-	3堆	舟形渠	2.0 内:ヨロナヂ・タラハナ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-06	
7	漆器	渠	-	3堆	舟形渠	2.0 内:ヨロナヂ	渠 渠	直 直	青 青	Ⅳ Ⅳ	002-07	

第3表 第196次調査 出土遺物一覧表(1)

9	寺社	村	-	2層	椎木高	2.3	佛像	器	鳥	輪・輪底8号 内面・内面8号 外面・外面8号	口絆部1/2 底溝	001-03	
9	寺社	村	-	3層	椎木高	1.5	佛像	器	鳥	輪・輪底8号 内面・内面8号 外面・外面8号	口絆部1/2 底溝	001-04	東人
10	土器品	土耕	-	3層	椎木高	4.3	内面	器	鳥	輪・輪底8号 内面・内面8号 外面・外面8号	口絆部1/2 底溝	001-01	
11	土器品	土耕	-	5層	椎木高	15.4	内面	器	鳥	口・口・輪底101983.4	口絆部1/2	001-07	
12	土器品	土耕	-	5層	椎木高	1.4	内面	器	鳥	輪・輪底8号 内面・内面8号 外面・外面8号	口絆部1/2 底溝	001-08	
13	土器品	土耕	-	5層	椎木高	0.5	内面	器	鳥	輪・輪底8号 内面・内面8号 外面・外面8号	口絆部1/2 底溝	001-01	
14	陶器	山系根	-	5層	椎木高	12.65	内面	器	鳥	口・口・輪底151983.3	口絆部1/2 底溝	001-01	
15	土器品	土耕	-	5層	椎木高	19.3	内面	器	鳥	輪・輪底8号 内面・内面8号 外面・外面8号	口絆部1/2 底溝	001-03	口絆部内面 各西朝付
16	土器品	土耕	-	5層	椎木高	6.9	内面	器	鳥	口・口・輪底101983.4	口絆部1/2 底溝	001-02	
					外面	1.1	佛像	器	鳥				
					外見	0.3	佛像	器	鳥				
					外見	2.40	佛像	器	鳥				

第196-3次調査

番号	遺物	目別	出土場所	調査内 調査外 調査名	法長(cm) 幅(cm)	調査・技法の特徴	持主	性別	色調	種類	登録番号	備考	
1	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	14.3 2.9	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	標121982-6	口絆部1/2	001-05	
2	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	14.4 2.5	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	聖・聖251983/1	底溝	001-06	
3	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	17.0 5.2	外見・内面・コナード 内面・コナード	器	鳥	聖・聖1983/2	口絆部1/2	001-07	
4	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	24.6 5.0	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	口・口・輪底101983.4	口絆部1/2	001-04	
5	土器品	土耕	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	8.0 2.2	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	聖・聖1983/4	口絆部1/2	001-05	
6	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	24.8 24.28	外見・内面・コナード	器	鳥	聖・聖1983/4	口絆部1/2 底溝	001-06	
7	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	9.7 2.4	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	口・口・輪底101983.4	口絆部1/2	001-04	天人入
8	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	9.0 1.9	外見・内面・コナード 内面・コナード	器	鳥	-	-	001-01	チャート
9	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	17.29 3.7	外見・内面・コナード 内面・コナード	器	鳥	-	-	001-01	
10	石器品	石	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	8.4 4.0	外見・内面・コナード 内面・コナード	器	鳥	-	-	001-07	安室岩
11	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	4.7 4.04	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	標121983/6	口絆部1/2 底溝	001-02	
12	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	4.0 1.9	外見・内面・コナード 内面・コナード	器	鳥	標121983/6	口絆部1/2	001-04	粘土堆合
13	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	10.3 2.4	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	口・口・輪底101983.4	口絆部1/2	001-01	
14	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	12.8 2.5	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	標121983/6	口絆部1/2	001-05	
15	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	聖穴の頂 内面	2.4 0.8	外見・内面・コナード 内面・コナード	器	鳥	口・口・輪底101983.4	底溝	001-02	香草原
16	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	16.3 4.3	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	標121983/8	口絆部2/2 底溝7/2	001-03	
17	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	2.4 2.4	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	標121983/8	口絆部2/2	001-06	
18	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	20.7 2.4	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	標121983/8	口絆部2/2	001-06	
19	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	21.0 2.4	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	標121983/8	底溝	001-01	
20	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	21.0 2.4	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	標121983/8	底溝	001-01	
21	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	14.9 4.4	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	聖・聖1983/4	口絆部1/2	001-06	
22	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	18.0 4.3	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	聖・聖1983/3	口絆部1/2	001-01	
23	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	21.8 2.4	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	聖・聖1983/3	口絆部1/2 底溝	001-03	
24	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	21.3 2.5	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	口・口・輪底101983.3	口絆部1/2 底溝	001-03	
25	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	33.3 2.7	外見・内面・コナード 内面・コナード	器	鳥	口・口・輪底101983.4	口絆部1/2	001-09	
26	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	4.3 1.9	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	標121983/8	把子・巻	001-04	
27	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	4.6 1.9	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	標121983/8	把子・巻	001-01	
28	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	7.3 2.5	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	標・か・一・セ709 底・底・底・底・底・底	口絆部1/2 底溝	001-01	片田自然施付付 内面・春日野・不転用
29	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	10.8 2.5	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	標7/1983/9	口絆部3/2	001-03	
30	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	22.9 2.9	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	口・口・輪底101983.4	口絆部2/2	001-02	
31	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	20.8 2.5	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	標121983-8	口絆部2/2	001-01	
32	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	17.0 2.5	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	聖・聖1983/3	口絆部2/2	001-04	
33	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	17.3 2.5	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	口・口・輪底101983.3	口絆部2/2	001-01	御器外面へ記号
34	土器品	林谷	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	19.3 2.7	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	聖・聖1983/4	口絆部2/2	001-05	
35	土器品	長柄根	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	20.8 2.7	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	口・口・輪底101983.4	口絆部2/2	001-02	
36	漆器品	墨	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	17.1 2.6	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	漆・不要864 底・底・底・底・底	口絆部3/2	001-02	片田自然施付付 内面・春日野・不転用
37	灰陶陶器	墨	SH1274	聖穴鍵物	口頂 内面	15.5 2.1	外見・内面 内面・ロゴロ	器	鳥	灰・灰197/2	底・底	001-03	
38	土器品	林谷	SH1275	聖穴鍵物	口頂 内面	10.8 2.5	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	聖・聖1983/4	口絆部3/2	010-05	
39	土器品	林谷	SH1275	聖穴鍵物	口頂 内面	11.3 2.5	外見・内面・コナード・ササエ 内面・コナード	器	鳥	口・口・輪底101983.4	口絆部6/2	010-04	

第4表 第196次調査 出土遺物一覧表(2)

40	土師器	糸A	SH-1275	堅六種物	唐支式 堅直	12.3 井内ヨコナードナードサエ 2.7 内面ヨコナードナード	堅 直	にじみ-裏縫10YR5/2	口縫目1/2	010-02	
41	土師器	糸A	SH-1275	堅六種物	口復 直	12.3 井内ヨコナードナードサエ 2.7 内面ヨコナードナード	堅 直	標196/6	口縫目1/2 直縫	009-03	
42	土師器	糸A	SH-1275	堅六種物	口復 直	12.3 井内ヨコナードナードサエ 2.7 内面ヨコナードナード	堅 直	標196/6	口縫目1/2	009-02	
43	土師器	糸B	SH-1275	堅六種物	堅直 高直	2.8 井内ヨコナードナードサエ 3.8 堅品ヨコナードナードサエ 3.8 高品ヨコナードナードサエ	堅 直	にじみ-裏縫10YR5/4	完形	002-01	堆積層底部丸孔 特殊鉄製品削留
44	土師器	糸A	SH-1275	堅六種物	堅直 高直	2.0 井内ヨコナードナードサエスリ 2.0 外面ヨコナードナード	堅 直	標197/6	口縫目1/2	010-03	
45	土師器	糸B	SH-1275	堅六種物	口復 直	22.4 井内ヨコナードナードサエスリ 2.0 井内ヨコナードナード	堅 直	標197/6	口縫目1/2	009-01	
46	土師器	糸A	SH-1275	堅六種物	堅直	1.5 井内ヨコナードナードサエスリ 1.5 内面ヨコナード	堅 直	標197/5RS	口縫目1/2	002-02	
47	土師器	糸A	SH-1275	堅六種物	唐支式 堅直	11.9 井内ヨコナードナードサエスリ 5.5 井内ヨコナードナードサエスリ 1.5 井内ヨコナードナードサエスリ	堅 直	標196/6	口縫目1/2	010-01	
48	土師器	糸A	SH-1275	堅六種物	口復 高直	10.1 井内ヨコナードナードサエスリ 14.2 井内ヨコナードナードサエスリ	堅 直	にじみ-裏縫15YR1/4	口縫目1/2	009-04	
49	土師器	糸A	SH-1275	堅六種物	唐支式 堅直	22.4 井内ヨコナードナードサエスリ 7.8 内面ヨコナードナード	堅 直	にじみ-裏縫10YR5/2	口縫目1/2 高直	012-01	
50	漆器皿	小型刀子	SH-1275	堅六種物	堅直 高直 厚直	2.1 井内ヨコナードナードサエスリ 1.2 井内ヨコナードナード 1.2 井内ヨコナード	-	-	-	-	001-07
51	漆器皿	釘T	SH-1275	堅六種物	堅直 厚直	4.2 井内ヨコナードナード	-	-	-	-	001-03
52	漆器皿	釘T	SH-1275	堅六種物	堅直 厚直	4.3 井内ヨコナードナード	-	-	-	-	001-06
53	漆器皿	釘T	SH-1275	堅六種物	堅直 厚直	4.7 井内ヨコナードナード	-	-	-	-	001-04
54	漆器皿	釘T	SH-1275	堅六種物	堅直 厚直	1.9 井内ヨコナードナード	-	-	-	-	001-05
55	土師器	糸A	SH-1275	堅六種物	唐支式 堅直	17.8 井内ヨコナードナードサエスリ 1.8 井内ヨコナードナードサエスリ	堅 直	標197/6	口縫目1/2	011-04	片蓋 扁上縫合直
56	土師器	糸A	SH-1275	堅六種物	口復 高直 厚直	15.9 井内ヨコナードナードサエスリ 3.4 井内ヨコナードナードサエスリ 10.2 井内ヨコナードナード	堅 直	標197/6	口縫目1/2 厚直4/2	010-06	
57	土師器	糸A	SH-1275	堅六種物	堅直	1.0 井内ヨコナードナードサエスリ	-	-	-	-	
58	土師器	糸A	SH-1275	堅六種物	口復 高直	14.5 井内ヨコナードナードサエスリ 3.4 井内ヨコナードナードサエスリ 10.2 井内ヨコナードナード	堅 直	にじみ-裏縫10YR5/4	口縫目1/2	010-07	
59	土師器	糸A	SH-1275	堅六種物	口復 高直	14.7 井内ヨコナードナードサエスリ 4.6 井内ヨコナードナード	堅 直	にじみ-裏縫15YR1/4	口縫目1/2	011-01	
60	漆器皿	堅	SH-1275	堅六種物	口復 高直	14.7 井内ヨコナードナードサエスリ 2.3 井内ヨコナード	堅 直	標196/6	口縫目1/2	003-02	内蓋 台付蓋
61	漆器皿	堅	SH-1275	堅六種物	唐支式 口復	10.8 井内ヨコナードナードサエスリ 10.8 井内ヨコナードナードサエスリ	堅 直	堅 カバ-199 堅 直 100-371/1	口縫目1/2	011-03	片蓋 台付蓋
62	土師器	糸D (CP)	SH-1274	堅六種	唐支式 (右側)	16.8 井内ヨコナードナードサエスリ 5.1 内面ヨコナード	堅 直	にじみ-裏縫10YR5/4	口縫目1/2	012-06	
63	土師器	各付小皿	ビシ	SW P1	口復 高直 厚直	9.8 井内ヨコナードナード 4.9 井内ヨコナード	堅 直	渡黄碧10YR5/4 口縫目1/2	口縫目1/2	012-03	
64	土師器	堅	ビシ	P1	唐支式 口復	10.8 井内ヨコナード 3.0 内面ヨコナード	堅 直	口縫目1/2	口縫目1/2	012-02	
65	土器	印	ビシ	高	堅直	10.6 井内ヨコナードナード	堅 直	にじみ-裏縫10YR5/3	-	011-06	
66	土師器	糸A	SH-1277	土筑4	唐支式 堅直	13.8 井内ヨコナードナード 2.3 井内ヨコナード	堅 直	標196/4	口縫目1/2	012-04	
67	土師器	堅	SH-1277	土筑4	堅直	10.0 井内ヨコナードナードサエスリ 10.0 井内ヨコナードナードサエスリ	堅 直	にじみ-裏縫15YR1/4	口縫目1/2	012-05	
68	土師器	糸A	SH-1278	通1	堅直	9.3 井内ヨコナードナードサエスリ 3.0 井内ヨコナードナード	堅 直	標196/6	口縫目1/2 高直	002-01	内蓋 貨物
69	漆器皿	堅	SH-1278	通1	堅直	14.8 井内ヨコナードナードサエスリ 1.0 井内ヨコナード	堅 直	安富15YR1/2	口縫目1/2	002-02	
70	土師器	堅	各付	通	堅直	9.3 井内ヨコナードナードサエスリ 3.0 井内ヨコナード	堅 直	にじみ-裏縫10YR5/3	口縫目1/2	011-05	

第196-5次調査

番号	器種	形状	出土場所	調査員	選擇名	法則(規)	説明	調査法	特徴	用度	色調	使用年	登録番号	備考
1	土師器	糸A	SH-1280	堅六種物	口復 直	10.0 井内ヨコナードナードサエスリ 3.5 井内ヨコナード	堅 直	渡黄碧10YR5/4	口縫目1/2	005-05				
2	土師器	糸A	SH-1280	堅六種物	唐支式 口復	14.5 井内ヨコナードナードサエスリ 12.2 井内ヨコナードナードサエスリ 4.0 井内ヨコナード	堅 直	標197/5	口縫目1/2	002-03				
3	土師器	糸A	SH-1280	堅六種物	堅直	10.0 井内ヨコナードナードサエスリ 2.5 井内ヨコナード	堅 直	渡黄碧10YR5/4	口縫目1/2	002-07	片蓋 扁上縫合直			
4	土師器	糸B	SH-1280	堅六種物	唐支式 堅直	14.4 井内ヨコナードナードサエスリ 3.6 井内ヨコナード	堅 直	渡黄碧10YR5/2	口縫目1/2	002-02				
5	土師器	糸B	SH-1280	堅六種物	堅直	2.6 井内ヨコナード	堅 直	標197/5	高直	001-08				
6	土師器	糸A	SH-1280	堅六種物	口復 直	2.2 井内ヨコナードナードサエスリ 2.5 井内ヨコナード	堅 直	渡黄碧10YR5/4	口縫目1/2	005-06				
7	土師器	糸A	SH-1280	堅六種物	堅直	10.0 井内ヨコナードナードサエスリ 4.4 井内ヨコナード	堅 直	標197/5	口縫目1/2	002-05				
8	土師器	糸A	SH-1280	堅六種物	唐支式 口復	15.6 井内ヨコナードナードサエスリ 2.9 井内ヨコナードナードサエスリ	堅 直	渡黄碧10YR5/4	口縫目1/2	002-01				
9	土師器	高張量	SH-1280	堅六種物	唐支式 口復	20.0 井内ヨコナードナードサエスリ 2.5 井内ヨコナード	堅 直	渡黄碧10YR5/4	口縫目1/2	002-01				
10	土師器	糸A	SH-1280	堅六種物	堅直 高直	17.2 井内ヨコナードナードサエスリ 1.8 井内ヨコナード	堅 直	標197/5	高直	001-05				
11	土師器	糸A	SH-1280	堅六種物	口復 高直	22.2 井内ヨコナードナードサエスリ 1.8 井内ヨコナード	堅 直	標197/5	口縫目1/2	005-07				
12	土師器	糸A	SH-1280	堅六種物	堅直 高直	27.7 井内ヨコナードナードサエスリ 6.5 井内ヨコナード	堅 直	にじみ-裏縫15YR1/4	口縫目1/2	002-04				
13	漆器皿	堅	SH-1280	堅六種物	堅直	15.7 井内ヨコナードナードサエスリ 1.8 井内ヨコナード	堅 直	渡黄碧10YR5/2	口縫目1/2	002-02				
14	土師器	糸A	SH-1280	堅六種物	口復 高直	16.7 井内ヨコナードナードサエスリ 2.0 井内ヨコナード	堅 直	渡黄碧10YR5/2	口縫目1/2	002-04				
15	漆器皿	堅	SH-1280	堅六種物	堅直	10.0 井内ヨコナードナードサエスリ 6.4 井内ヨコナード	堅 直	渡黄碧10YR5/4	口縫目1/2	001-03				
16	土師器	糸A	SH-1279	土筑1	口復	13.5 井内ヨコナードナードサエスリ 3.2 井内ヨコナード	堅 直	標196/6	口縫目1/2	002-02				
17	土師器	糸A	SH-1279	土筑1	口復	10.0 井内ヨコナードナードサエスリ 2.0 井内ヨコナード	堅 直	渡黄碧10YR5/4	口縫目1/2	002-04				
18	土師器	糸A	SH-1279	土筑1	口復	12.0 井内ヨコナードナードサエスリ 2.5 井内ヨコナード	堅 直	標196/6	口縫目1/2	002-02				
19	土師器	糸A	SH-1279	土筑1	口復	10.5 井内ヨコナードナードサエスリ 2.0 井内ヨコナード	堅 直	渡黄碧10YR5/3	口縫目1/2	002-01				

第5表 第196次調査 出土遺物一覧表(3)

第196-6次調査

番号	場所	基材	出土遺物	調査地 出土地名	法量(cm) 重さ(g)	調査・技法の特徴	登 記 日	修 成 日	色調	操作者	登録番号	備考
1	土師器	砂利式 ガラス	SII-1282	窓穴鏡物	残存高 12.3	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縁部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ 内側: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ	留 魚	調査地: 1986.3	—	002-01	櫻美村	
2	土師器	骨	SII-1282	窓穴鏡物	残存高 8.4	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縁部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ 内側: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-04		
3	土師器	骨	SII-1282	窓穴鏡物	残存高 2.0	外側: ナイフ 内面: ナイフ	留 魚	12.0-14.4-調査地: 1987.4	—	005-05		
4	土師器	骨	SII-1282	窓穴鏡物	残存高 6.6	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縁部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ 内側: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-07		
5	土師器	骨	SII-1282	窓穴鏡物	残存高 1.8	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縁部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ 内側: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-10		
6	土師器	骨	SII-1282	窓穴鏡物	残存高 1.9	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縁部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ 内側: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-11		
7	土師器	骨	SII-1282	窓穴鏡物	残存高 1.8	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縁部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ 内側: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-12		
8	土師器	骨	SII-1282	窓穴鏡物	残存高 2.0	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縁部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ 内側: ニコナマ・ナマ・オサエ・ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-13		
9	二列階段	骨	SII-1282	μレ μレ(粘土板)	残存高 2.0	—	留 魚	—	—	004-01		
10	漆器類	骨	SII-1282	漆器類	残存高 2.2	内面: ロココナ 外側: ロココナ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-08	内・外面: 油性漆付	
11	土師器	骨	SII-1282	漆器類	残存高 1.9	内面: ニコナマ・ナマ・オサエ 内側: ニコナマ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-09		
12	土師器	骨	SII-1282	漆器類	残存高 1.8	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縁部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ 内側: ニコナマ・ナマ・オサエ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-07		
13	灰陶器類	骨	SII-1282	漆器類	残存高 1.8	内面: ロココナ 外側: ロココナ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-06		
14	土師器	骨	SII-1282	漆器類	残存高 1.8	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縁部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ 内側: ニコナマ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-08		
15	土師器	骨	SII-1282	漆器類	残存高 1.8	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縁部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ 内側: ニコナマ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-04		
16	土師器	骨	SII-1282	漆器類	残存高 2.4	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縁部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ 内側: ニコナマ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-03		
17	灰陶器類	骨	SII-1282	漆器類	残存高 1.3	内面: ロココナ 外側: ロココナ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-05		
18	土師器	骨	SII-1282	漆器類	残存高 2.0	内面: ロココナ 外側: ロココナ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-05		
19	土師器	骨	SII-1282	漆器類	残存高 2.5	内面: ロココナ 外側: ロココナ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-02		
20	土師器	骨	SII-1282	漆器類	残存高 2.0	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縁部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ 内側: ニコナマ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-03		
21	土師器	骨	SII-1282	漆器類	残存高 2.0	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縊部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ 内側: ニコナマ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-04		
22	陶器	骨	SII-1282	漆器類	残存高 2.0	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ・ササギヘ 縊部: 内面: ニコナマ・ナマ・オサエ 内側: ニコナマ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	005-02		
23	土器類	土器	SII-1282	包合層	身 1.1 口 4.5 底 0.25	身: ナイフ 口: ハコツヘ 底: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-07		
24	土器類	土器	SII-1282	包合層	身 1.2 口 4.5 底 0.25	身: ナイフ 口: ハコツヘ 底: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-08		
25	土器類	土器	SII-1282	包合層	身 1.2 口 4.5 底 0.25	身: ナイフ 口: ハコツヘ 底: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-09		
26	漆器類	漆器	SII-1282	包合層	身 1.2 口 4.5 底 0.25	身: ナイフ 口: ハコツヘ 底: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-10		
27	灰陶器類	漆器	SII-1282	包合層	身 1.2 口 4.5 底 0.25	身: ナイフ 口: ハコツヘ 底: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-04	内面: ロココナ 外側: ハラシ 底: ハラシ	
28	陶器	漆器	SII-1282	包合層	身 1.2 口 4.5 底 0.25	身: ナイフ 口: ハコツヘ 底: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-07		
29	陶器	漆器	SII-1282	包合層	身 1.2 口 4.5 底 0.25	身: ナイフ 口: ハコツヘ 底: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-08		
30	土器類	漆器	SII-1282	包合層	身 1.2 口 4.5 底 0.25	身: ナイフ 口: ハコツヘ 底: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-09		
31	土器類	漆器	SII-1282	包合層	身 1.2 口 4.5 底 0.25	身: ナイフ 口: ハコツヘ 底: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-08		
32	土器類	漆器	SII-1282	包合層	身 1.2 口 4.5 底 0.25	身: ナイフ 口: ハコツヘ 底: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-04	内面: ロココナ 外側: ハラシ 底: ハラシ	
33	陶器	漆器	SII-1282	包合層	身 1.2 口 4.5 底 0.25	身: ナイフ 口: ハコツヘ 底: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-05		
34	陶器	漆器	SII-1282	包合層	身 1.2 口 4.5 底 0.25	身: ナイフ 口: ハコツヘ 底: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-04		

第196-7次調査

番号	場所	基材	出土遺物	調査地 出土地名	法量(cm) 重さ(g)	調査・技法の特徴	登 記 日	修 成 日	色調	操作者	登録番号	備考
1	土師器	骨	SII-1282	窓穴鏡物	身 14.1 口 13.0 底 2.0	内面: ナイフ 外側: ハコツヘ 縊部: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-01	片山・粘土層埋合直	
2	土師器	骨	SII-1282	窓穴鏡物	身 14.1 口 13.0 底 2.0	内面: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-01		
3	土師器	骨	SII-1282	窓穴鏡物	身 14.1 口 13.0 底 2.0	内面: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-01	留山・塗付直	
4	土師器	骨	SII-1282	窓穴鏡物	身 14.1 口 13.0 底 2.0	内面: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-01	留山・塗付直	
5	土師器	骨	SII-1282	窓穴鏡物	身 14.1 口 13.0 底 2.0	内面: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-01	留山・塗付直	
6	土師器	骨	SII-1282	窓穴鏡物	身 17.0 口 16.0 底 2.0	内面: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-02	留山・塗付直	
7	漆器類	漆器	SII-1282	包合層	身 13.2 口 12.8 底 2.8	内面: ロココナ 外側: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-03	留山・塗付直 1-12.8cm	
8	土器類	小皿	SII-1282	包合層 (窓)	身 13.6 口 12.8 底 2.8	内面: ナイフ 外側: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-04	留山・塗付直	
9	土器類	小皿	SII-1282	包合層 (窓)	身 13.6 口 12.8 底 2.8	内面: ナイフ 外側: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-05	留山・塗付直	
10	土器類	小皿	SII-1282	包合層 (窓)	身 13.6 口 12.8 底 2.8	内面: ナイフ 外側: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-06	留山・塗付直	
11	土器類	小皿	SII-1282	包合層 (窓)	身 13.6 口 12.8 底 2.8	内面: ナイフ 外側: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-07	留山・塗付直	
12	漆器類	漆器	SII-1282	包合層	身 13.6 口 12.8 底 2.8	内面: ナイフ 外側: ハラシ	留 魚	12.4-14.4-調査地: 1987.4	—	004-08		

第6表 第196次調査 出土遺物一覧表(4)

付編 史跡現状変更等許可申請

令和元年度に提出された史跡現状変更等許可申請は27件で、申請の内容は、一覧表（第7表）のとおりである。年度内に発掘調査を行ったのは、前年度以前の申請分も含め8件で、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が1件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが7件である。また、発掘調査を行わなかった22件は、小規模または工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさない場合や、すでに発掘調査を実施している箇所での申請である。なお、掘削工事等にあたっては斎宮歴史博物館調査研究課職員並びに明和町斎宮跡・文化観光課職員の工事立会のもとで実施している。これらの申請は、申請者ならびに申請内容で分類すると下記のとおりである。

(A) 個人等による申請

14件の申請があった。うち住宅新築、浄化槽設置など発掘調査が必要とされた4件（第194-11、第196-5・6・7次調査）について調査を行った。これ以外については、住宅解体や工作物の設置等で土地利用区分の第三、四種保存地区にあたり、発掘調査済の場合や工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

(B) 公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

8件の申請があった。内容は、電気・通信関係や、排水路・道路の改修等であり、工事立会いで着工している。

(C) 史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

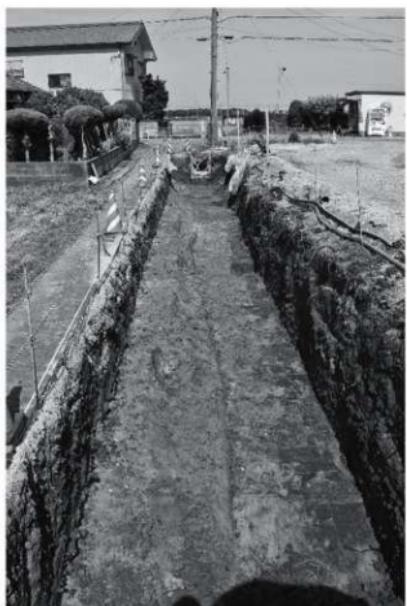
4件の申請があった。全て明和町歴史的風致維持向上計画に基づく史跡内環境整備に伴うものである。

(D) 発掘調査のための申請

1件の申請があった。これは三重県が主体となって斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査（第197次調査）で、計425.8m²が調査された。調査内容は斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行される。

順 位	申 請 地 點 名		種 別	申 請 者	変 更 内 容	申 請 日	許 可 日	変 更 面 積	區 分	備 考
	大 字	小 字								
1	斎宮	牛糞	A	個人	建物物除却	H21.4.5	H21.4.15	2種	4	
2	斎宮	蘿川	A	個人	建物物除却	H21.4.16	R1.5.9	20種	4	
3	竹川	花園	A	個人	太陽光発電設備設置	H21.4.16	R1.6.21	231m ²	4	第194-11次調査
4	竹川	花園	B(株)	中堅電力 電力カットワークカンパニー 仙波支店長	中堅電力 電力カットワークカンパニー 仙波支店長	H21.4.17	R1.5.9	13m ² (余)	4	
5	斎宮	中西	A	個人	建物物除却	R1.5.23	R1.6.4	2種	4	
6	竹川	中垣内	D	三重県知事	免掘調査	R1.6.14	R1.7.19	425.8m ²	2	第197次調査
7	斎宮	牛糞	A	個人	駐車場造成	R1.6.6	R1.7.19	81.6m ²	3	
8	斎宮	福林	A	個人	建物物除却	R1.6.25	R1.7.3	3種	4	
9	竹川	更裏	B(株)	西日本電信電話 三重支店長	電話柱新設	R1.6.27	R1.7.3	1本	4	
10	斎宮	福林	A	個人	住宅建築	R1.7.30	R1.9.20	41.4m ²	4	第196-5次調査
11	斎宮	東前津	C	明和町長(斎宮跡・文化観光課)	アスファルト舗装	R1.8.2	R1.8.5	63m ²	3	
12	竹川	中垣内	B(株)	中堅電力 電力カットワークカンパニー 仙波支店長	電柱支撑撤去	R1.8.13	R1.8.28	1委	2	
13	斎宮	木裏山	A	個人	住宅建築	R1.8.27	R1.10.18	343.55m ²	3	第196-6次調査
14	斎宮	広畠	B	近畿日本鉄道(株) 名古屋鉄道部 施設工事課 川保駅区長	陸切道改修	R1.9.3	R1.9.24	23.8m ²	3	
14	斎宮	中西	A	個人	住宅建築	R1.9.20	R1.11.15	362.64m ²	3	第196-7次調査
16	斎宮	蘿川	B	三重県知事	側溝改修	R1.10.4	R1.10.17	36m ²	3	
17	斎宮	福林	A	個人	住宅解体	R1.10.29	R1.11.14	2種	4	
18	斎宮	福原	C	明和町長(斎宮跡・文化観光課)	説明看板設置	R1.12.17	R1.12.26	1基	1	
19	斎宮	牛糞	A	個人	ブロック壁改修	R1.11.22	R1.12.5	24.8m ²	4	
20	斎宮	西前津	A	個人	ブロック壁設置	R1.12.2	R1.12.12	63.4m ²	4	
21	斎宮	東加座	B	中堅電力 電力カットワークカンパニー 仙波支店長	電柱建設	R1.12.6	R2.1.17	8箇所	3	
22	竹川	中垣内	A	個人	住宅除却	R1.12.18	R1.12.25	1種	4	
23	斎宮	東加座	B	(株) 中堅電力 電力カットワークカンパニー 仙波支店長	電柱新設・支柱新設	R2.1.31	R2.3.13	5箇所	3	
23	竹川	西前津	B	(株) 中堅電力 電力カットワークカンパニー 仙波支店長	電柱新設・支柱新設	R2.2.5	R2.2.20	2種	4	
24	竹川	南裏	A	個人	住宅等除却	R2.2.5	R2.2.20	2種	4	
25	斎宮	観治山	C	明和町長(斎宮跡・文化観光課)	転落防止柵改修	R2.2.13	R2.3.22	22m ²	3	
26	斎宮	牛糞	B	明和町長(人権生活環境課)	カーブラーウォール	R2.2.25	R2.3.11	2基	3	
27	斎宮	児山(上園)	C	明和町長(斎宮跡・文化観光課)	道路舗装	R2.3.5	R2.3.11	636.3m ²	1	

第7表 令和元年度現状変更等許可申請一覧



写真図版1 第196-1次 調査区3 全景（西から）



写真図版2 第196-1次 調査区3 全景（西から）



写真図版3 第196-1次 調査区3 東壁土層（西から）



写真図版4 第196-1次 調査区3 西壁土層（東から）



写真図版5 第196-1次 調査区1 全景（南東から）



写真図版6 第196-1次 調査区1 北壁土層（南から）



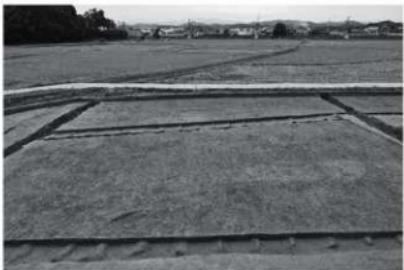
写真図版7 第196-2次 調査区 全景（北東から）



写真図版8 第196-2次 調査区 全景（西から）



写真図版9 第196-2次 線状遺構SX11036（北から）



写真図版10 第196-2次 線状遺構SX11036（北から）



写真図版11 第196-2次 線状遺構SX11036（南西から）



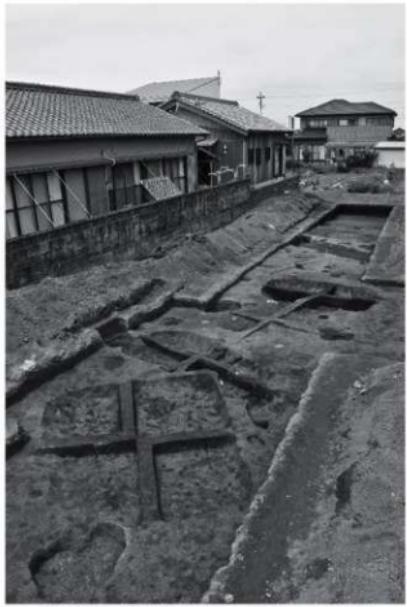
写真図版12 第196-2次 基本層序（南から）



写真図版13 第196-3次 調査区 全景（南から）



写真図版14 第196-3次 調査区 全景（北から）



写真図版15 第196-3次 SI11274・SI11275（南東から）



写真図版16 第196-3次 SI11274・SI11275（北から）



写真図版17 第196-3次 SI11274（南西から）



写真図版18 第196-3次 SI11274 南土坑 溶解炉 土層（北から）



写真図版19 第196-3次 SI11274 北土坑 溶解炉 梱出状況（南から）



写真図版20 第196-3次 SI11274 北土坑 溶解炉 土層（南から）



写真図版21 第196-3次 SI11275（南から）



写真図版22 第196-3次 SI11275 土器出土状況（南西から）



写真図版23 第196-3次 SI11276（南西から）



写真図版24 第196-3次 SE11277（北から）



写真図版25 第196-4次 調査区1～3 全景（北西から）



写真図版26 第196-4次 調査区1～3 全景（南西から）



写真図版27 第196-4次 調査区4 全景（南東から）



写真図版28 第196-4次 調査区1 西壁土層（東から）



写真図版29 第196-5次 調査区 全景（西から）



写真図版30 第196-5次 SI11279 + SI11280（南から）



写真図版31 第196-5次 SI11279 + SI11280（北東から）



写真図版32 第196-5次 調査区 東壁土層（南西から）



写真図版33 第196-5次 調査区 南壁土層（北東から）



写真図版34 第196-6次 調査区1～4 全景（北から）



写真図版35 第196-6次 調査区1～5 全景（南から）



写真図版36 第196-6次 調査区1 SA11284～11286（北から）



写真図版37 第196-6次 調査区1 SA11284～11286
完體状況（北から）



写真図版38 第196-6次 調査区1 SA11284～11286
P1～3 土層（北東から）



写真図版39 第196-6次 調査区1 SA11285・11286
P4・5 土層（西から）



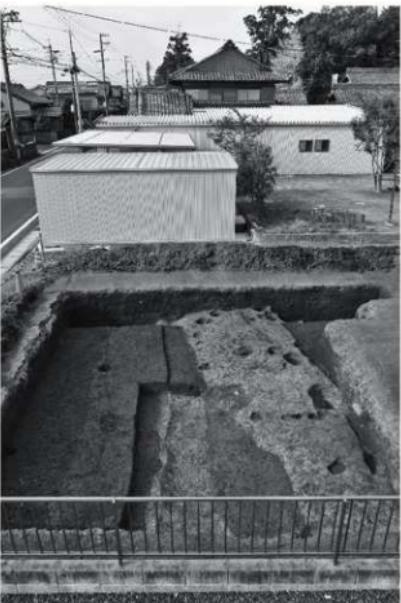
写真図版40 第196-6次 調査区1 SA11284・11285
P7・8 土層（西から）



写真図版41 第196-6次 調査区4 SI11282（北から）



写真図版42 第196-7次 調査区1 全景（北東から）



写真図版43 第196-7次 調査区2 全景（東から）



写真図版44 第196-7次 調査区1 南壁土層（北西から）



写真図版45 第196-7次 調査区2 SD11293（南東から）



写真図版46 第196-7次 調査区2 西壁土層（南東から）



写真図版47 第196-7次 調査区2 東壁土層（北西から）



写真図版48 第196-3次 SI11274 出土土器



写真図版49 第196-3次 SI11275 出土土器



写真図版50 第196-3次 SI11274 出土 土器器「鴨」墨書



写真図版51 第196-6次 SI11282 出土 煙突付移動式カマド

報 告 書 抄 錄

史跡斎宮跡
令和元年度
現状変更緊急発掘調査報告

令和2(2020)年12月25日

編集 斎宮歴史博物館
発行 明和町
印刷 光出版印刷株式会社
